



静岡社会健康医学大学院大学
SHIZUOKA GRADUATE UNIVERSITY OF PUBLIC HEALTH

アニュアルレポート 2025
ANNUAL REPORT 2025



Contents

- 1 | 世界の健康を牽引する大学を目指して
- 3 | 運営の体制
- 4 | 高度専門人材の育成
- 6 | プロジェクト研究
- 9 | 地域・産官学連携
- 14 | 成果の還元
- 16 | キャンパス紹介
- 17 | 財務状況等
- 21 | 基礎データ
- 22 | 論文及び学会等発表一覧

世界の健康を牽引する大学を目指して

基本理念

健康と医療、環境を統合する俯瞰的な視点を機軸とし、
健康寿命の延伸に資する教育研究を通じ、
国際社会に貢献する「知と人材の拠点」を目指します。

基本方針

POINT

1

高度専門人材の育成

社会健康医学の学識を社会に還元し、医療・保健・福祉の現場でその向上に貢献できるプロフェッショナルな人材を育成します。

POINT

2

最先端の研究

臨床・予防医学の高度化、健康増進・疾病予防対策の最適化に資する最先端の疫学研究、ゲノム医学研究、医療ビッグデータ解析に取り組めます。

POINT

3

成果の社会還元

研究成果の社会実装を積極的に進め、幅広い視点から人類の健康増進や疾病予防に貢献します。

校章



静岡社会健康医学大学院大学から世界に羽ばたく人材を、医療の「医」の旧字「醫」の草書体をモチーフに、鳥の形にデザイン。
その中心部には、ハートが隠されており、社会健康医学が人々の健康と福祉の向上を図るための学問であることを表している。
清潔感のあるブルーのグラデーションで、成長・発展を表現。

中期目標・中期計画

中期目標・中期計画（2021年度～2026年度）は、本学の社会に対する「公的な約束」であり、次の3項目を重点的な目標に位置付けています。この中期目標の達成に向けて、着実に中期計画を実行していきます。

- 1 社会健康医学の学識を社会に還元する人材や社会健康医学を継続的に研究する人材の育成
- 2 社会健康医学研究の長期かつ継続的な推進
- 3 社会健康医学研究の成果の地域への還元

また、毎年度、中期計画の取組状況について自己点検・評価を実施・公表することで、社会に対する説明責任を果たし、皆様の理解と信頼の獲得に努めます。

中期目標・中期計画全文
<https://s-sph.ac.jp/disclosure/corporate/plan/>

各取組の実現に向けた役員体制

(2025年度末現在)

宮地 良樹
理事長兼学長

中山 健夫
副理事長(教育研究担当)
(京都大学大学院医学研究科教授・
京都大学医学部附属病院倫理支援部部長)

伊藤 裕
副理事長(将来構想担当)
(慶應義塾大学予防医療センター特任教授・
慶應義塾大学名誉教授)

窪田 浩一郎
理事(総務担当)

後藤 康雄
理事(経営担当)
(はごろもフーズ(株)代表取締役会長)

浦野 哲盟
理事(教育研究担当)
(浜松医科大学特命研究教授・
十全オアシスクリニック院長)

渡邊 高秀
監事(弁護士)

吉村 峰仙
監事(公認会計士・税理士)

運営の体制

組織図



高度専門人材の育成

「知と人材の拠点」を目指して

■ 教育課程の充実

静岡社会健康医学大学院大学では、社会健康医学の最先端において未解明の課題に果敢に取り組む研究者の育成に向けて、2023年度に「社会健康医学専攻博士後期課程」を開設しました。定員2名に対して、2025年度は4名を受け入れました。

博士前期（修士）課程では、聴覚・言語分野に特化した「聴覚・言語コース」において、修了生を1名輩出しました。研究者として本分野の第一人者となり、医療関係者においては、診療内容の質の向上、新知見の発信などの社会還元、保健福祉関係者においては、現場での指導的立場となることが期待され、聴覚障害児の障害軽減に繋がることも目指します。

また、「認定遺伝カウンセラー」を養成する「遺伝カウンセラー養成コース」を新設しました。「認定遺伝カウンセラー」は、様々な分野で遺伝医療やゲノム医療当の推進に不可欠な人材として、活躍が期待されます。



■ 教育環境の整備

開学時からオンライン環境を積極的に整備しており、遠隔による授業や教育研究指導を行うことを可能としています。これにより、本学に通う多くの学生が仕事と学業の両立を実現しています。



■ 図書館

24時間利用可能な本学図書館は、公衆衛生学の5つのコア領域を中心に教育研究に必要な選書を揃えています。また、電子ジャーナル・データベースは約4,000タイトル収載しています。

2025年度は図書館ニュースレター等を活用した図書館サービスの積極的な広報により、文献複写サービスの依頼数や本学教員・学生からの文献検索支援申込数が増加しました。



聴覚・言語コース

聴覚・言語領域では、聴覚・言語にかかわる専門的な教育・研究（きこえと脳の仕組み、各世代に対する聴覚補償のあり方、言語発達、認知の過程など）をとおして、高度な機能評価と適切な介入から社会健康医学の一翼を担うとともに、その分野をリードする専門人材を育成します。

令和7年度には、博士課程1名、修士課程2名を対象にした教育と研究指導を行いました。専任講師・非常勤講師のほか外部のゲストスピーカーを迎え、聴覚や認知メカニズムの基礎から、難聴への介入技術、社会的課題の理解を促す講義・演習を提供しました。両側人工内耳装用者の両耳機能の発達や、新生児聴覚スクリーニングとその後のフォローアップに関わるデータ収集といった学生の研究課題への指導を行いました。また、本学の専任教員・非常勤講師に加えて海外の客員教員も迎えており、国際的な視点で聴覚・言語領域の教育・研究の推進にむけた体制も整えつつあります。

遺伝カウンセラー養成コース

「遺伝」は従来はごく一部の限られた疾患が対象でしたが近年は医療の幅広い現場に続々と実装化され医療中の重要な分野となりつつあります。一方で個人の遺伝情報は究極の個人情報であり、その特性を理解して取り扱う必要がありその人材が求められています。

遺伝カウンセラーは、遺伝医学の専門知識を持ち、患者や家族に遺伝に関する情報を提供し、心理的・社会的なサポートを行う専門職です。令和6年度に新たに開講された遺伝カウンセラー養成コースでは、遺伝カウンセラーとして必要な知識・技術・倫理観を身につけ、社会に貢献できる専門家を育成します。



ゲノムコホート

県内の地域住民を対象とした健康追跡調査（コホート研究）を行い、病気の予防に役立つ成果を生み、誰もが健やかに長生きできる社会を目指します。

およそ5年おきに同一の個人に調査をお願いし、長期間にわたる健康状態を記録します。最先端のゲノム科学（ヒト遺伝子情報を網羅的に調べる手法）を取り入れ、生まれ持った体質に応じた予防医学の発展に貢献します。継続的に記録保管されたデータと検体は、現在そして次世代の研究者が質の高い研究を行う基盤となります。静岡県民の健康を支える貴重な財産といえます。

地域住民と研究協力者の参加を募る研究過程そのものにも意義があります。健診の説明会・ニュースレターを通して、健康意識を高めます。本事業は県内外の大学・研究機関・企業や県内自治体との共同事業であり、各団体間の交流を通じた研究発展と施策の改善につながることも期待されています。



年度	地区	参加人数
2021	賀茂	405 (コロナ禍で縮小)
2022	賀茂	1,287
2023	袋井市	1,854
2024	袋井市	1,175
2025	島田市	1,014



コホート調査 (しまけん!健診)の 実施

- 2025年8月、2026年1月～2月にかけて、常葉大学、静岡県立大学、京都大学、聖隷福祉事業団等の関係機関と連携し、島田市でコホート調査（しまけん!健診）を実施しました。調査日は16日、準備日は4日、検体等回収日は14日（計34日間）でした。
- コホート調査に先立ち、健診実施会場等で住民向けの事前説明会を実施しました（6日間）。説明会では、健康づくりに関する講演会も併せて実施しました。
- しまけん!健診には、のべ1,014人の参加者を得ました。
- コホート調査で収集した臨床情報をクリーニングしデータベース化しました。血液・尿中の主要なマーカーを測定し、残検体を冷凍保存しました。
- 末梢血からDNAを抽出し、ゲノム解析を行うための試料を確保しました。
- コホート調査後は、結果（特定健診相当分ならびに医学的意義が明確な項目）を対象者に回付するとともに、結果説明会を開催しました。結果説明会では、サルコペニアの予防に有用な運動指導や、脳卒中予防、歯科衛生に関する講演も行いました。

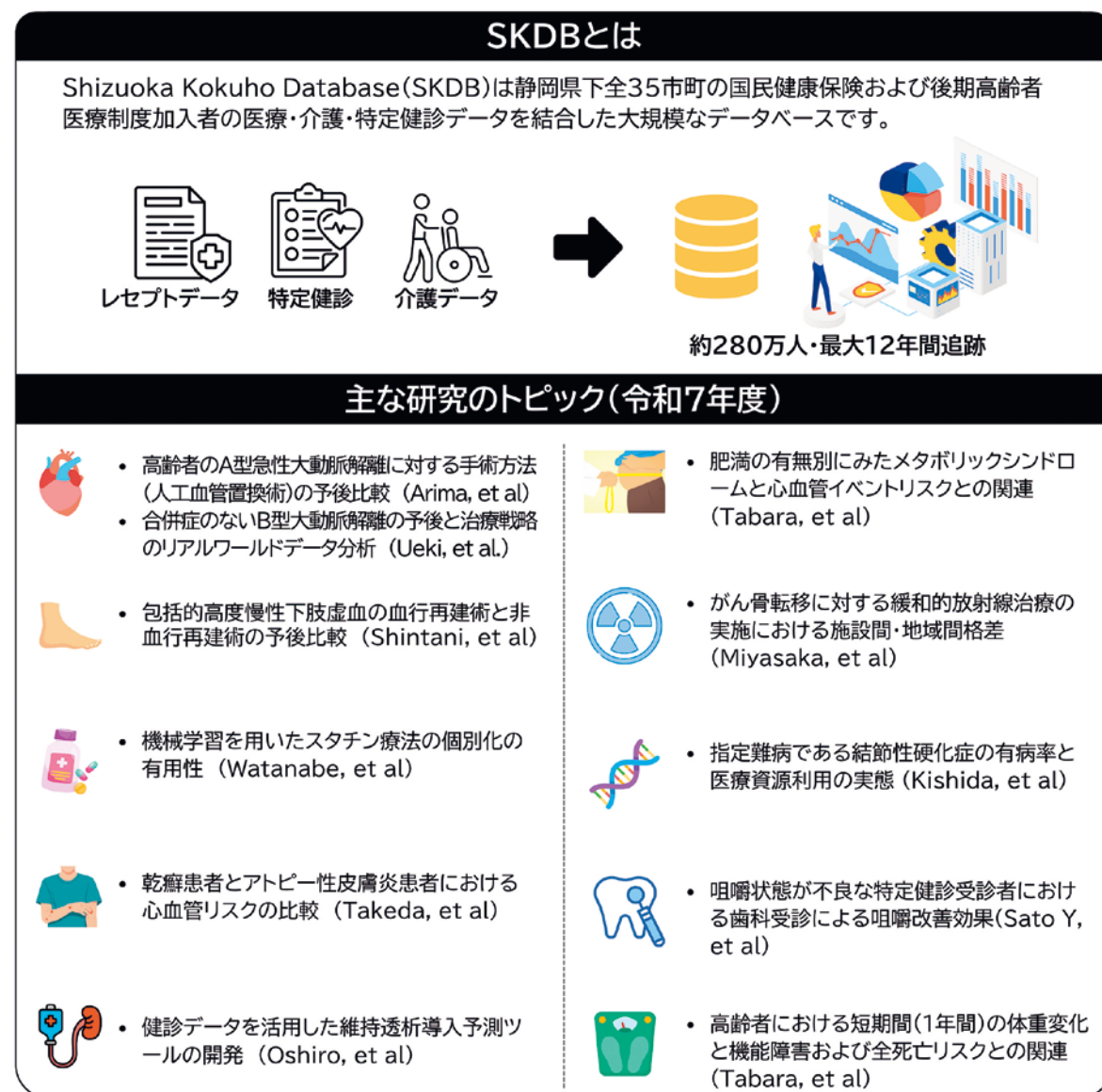
コホート調査への 参加スタッフの数

- コホート調査（しまけん!健診、ならびに関連業務（事前説明会、結果説明会、市町や医療機関等の調整業務）のため、研究代表者が年間52日間島田市に出向きました。
- コホート調査に関わった教職員（他大学や県からの参加者含む）は延べ423人でした。

静岡県市町国保データベース (SKDB)

本学では、静岡県下全35市町の国民健康保険および後期高齢者医療制度加入者の医療・介護・特定健診データを結合した大規模なデータベース「静岡県市町国保データベース (SKDB)」を整備し、社会健康医学に関するエビデンスの創出を目的とした医療ビッグデータ研究を実施しています。令和7年時点の静岡SKDBの登録者は約280万人で、最長で12年以上追跡することが可能です。様々な疾患の発症や予後の予測や、治療効果評価など社会健康医学に関するエビデンスの創出を目指しています。これらは Shizuoka Kokuho Database Study の名前で論文発表しており、令和7年度では17報の実績がありそのうち16報が国際雑誌への報告でした。令和3年度は14報（うち国際雑誌5報）、令和4年度は23報（うち国際雑誌8報）、令和5年度は13報（うち国際雑誌6報）、令和6年度は21報（うち国際雑誌14報）でした。コホート研究と並び本学の研究の主流となっています。

SKDBを用いた研究概要(令和7年度)



医療ビッグデータ解析研究に関する論文件数及び学会発表件数 45件

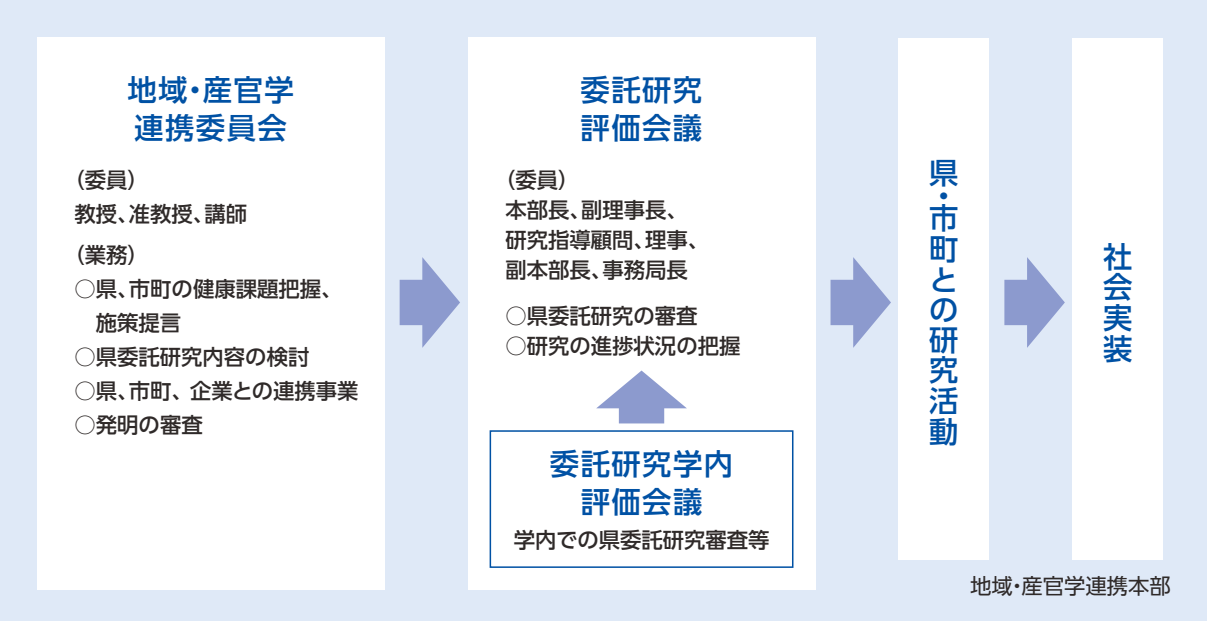
継続研究 60件

新規開始研究 19件

- 【静岡国保データベースを用いた循環器疾患・フレイルの疫学研究】
- 【静岡国保データベースの環境整備と利活用のための基盤整備】
- 【JMDC保険者データベースの多面的解析による医学的エビデンスの創出】
- 【第4次静岡県健康増進計画の指標モニタリングに資するデータ整備と活用に関する研究】
- 【KDBを用いたペランパネルとレベチラセタムの単剤療法における、けいれん発作抑制効果の比較】
- 【静岡県における卵巣がん関連遺伝医療の現状の記述疫学研究】
- 【後期高齢者フレイルの多面的構造および自然歴の記述疫学研究】
- 【要介護度別にみる骨脆弱性骨折部位の分布と予後に関する検討】
- 【スルホニル尿素(SU)薬を使用されている65歳以上の高齢者糖尿病の背景因子に関する記述疫学研究】
- 【腹部大動脈瘤に対する血管内治療と開腹手術の長期臨床アウトカムに関する静岡県データベース研究】
- 【修正可能リスク因子に起因する人口寄与割合と罹患数・経済的負荷の推計】
- 【悪性リンパ腫・多発性骨髄腫におけるCAR-T療法とBiTE療法の記述疫学研究】
- 【日本版抗コリン薬リスクスケール (J-ARS) を用いた高齢者における抗コリン薬の使用実態分析】
- 【アトピー性皮膚炎の治療動向における記述統計研究】
- 【膀胱癌発症リスクの解明】
- 【抗凝固療法中の心房細動患者のアウトカムに対して調剤チャンネルが与える影響の検討：大規模データベースSKDBを用いたコホート研究】
- 【上肢骨折患者の歯数と下肢骨折リスクの関連に関する研究】
- 【膠原病と新規心房細動発症の関連】
- 【静岡国保データベースを利用したSGLT2阻害薬とDPP4阻害薬による血管疾患発症抑制効果の比較】

地域・産官学連携

地域社会への実装を生み出す静岡SPHモデル



○社会健康医学研究により得られた知見や成果を、行政や医療機関などと連携して社会実装する取組を推進しています。
○県や市町、企業等からの諸課題に対する対策の提案や助言等を積極的に実施しています。

静岡県からの指定研究の取組

課題名	研究期間(年度)	目 的	地域社会への社会実装
健康寿命延伸のための市町別生活習慣等のモニタリングの継続	R7～8	生活習慣病予防のモニタリングに必要な、栄養素摂取量、身体活動量、喫煙、飲酒などの生活習慣などを、市町毎に十分な精度・代表性を以て適切な間隔で測定できるような体制づくりの構築	・市町等の行政施策に直接利用できる生活習慣モニタリングを実施するシステムの構築 ・モニタリングに基づいて、住民の健康状態の把握を行い、それに基づいた効果的な行政施策の立案、実施、及びその評価方法の確立
新型コロナウイルス感染症の高齢者施設等での発生状況の分析	R5～7	各施設から県に報告された新型コロナウイルス感染症患者の発生報告に基づく発生状況の分析及び集団発生等予防の方策の検討	・新型コロナウイルス感染症の発生報告に基づく行政関連資料を利用した感染対策施策の実例の周知 ・行政を通した各高齢者施設・障害者施設への周知及び今後の感染予防施策への貢献
事業所における健康づくりに関する研究	R6～7	従業員50人未満の中小規模事業所における健(検)診の実施状況や健康管理に関する課題を把握し、事業所における健康づくりや生活習慣予防の取組支援体制の充実を図る	・中小規模事業所の健康管理について、調査結果に基づいた効果的な行政施策の立案と実施支援 ・中小規模事業所等の健康管理担当者や従業員に健康づくりについての具体的な取り組み方法の案内

結 果 健康寿命延伸のための市町別生活習慣等のモニタリング市町セミナー

開催日時 2025年7月30日 10:20-16:20 (全市町)
2026年2月25日 10:20-16:20 (全市町)

健康寿命の延伸に寄与する栄養施策等の推進を目指し、食と生活習慣チェックのデータを活用し、既存事業の見直しや課題解決のためのより効果的な施策の企画・立案などを学びました。



医療連携

県や県の施策に協力する団体や医療機関と連携し、 本県の医師などの人材確保対策へ積極的に貢献しています

地域医療連携推進法人ふじのくに社会健康医療連合（代表理事：宮地良樹）の理事会（全4回）に理事長が出席し、静岡県立病院機構、地域医療機能推進機構と医師確保や医療連携などについて意見交換を行い、連携を深めました。

県から医師配置調整業務を受託し（受託事業）、配置調整連絡会議等（全4回）、医師確保部会（全3回）、及び医療対策協議会（全2回）への参加、県との定期協議（原則月1回）への参加、専任医師1名と配置調整担当医師1名を採用し、その専門性を生かしたキャリア形成プログラムの再構築を行う病院への助言及び静岡県立総合病院との協働による県医学修学研修資金被貸与者・病院面談の実施などを通じて本県の医療体制を支える医療人材の確保に貢献しました。

令和7年度に本学が担当した医師配置対象者は222名（新規63名、継続159名）で、内11名を東部地域の病院に配置しました。また108名（新規61名、継続47名）に面談を実施しました。

事業の実施を通じて、県や医療機関、浜松医科大学等関係機関との連携を深めることができ、教育研究の基盤を強化しました。

様々な地域の課題解決に貢献するために、 医療機関等との連携・協力関係を構築しています

地方独立行政法人静岡県立病院機構及び掛川市・袋井市病院企業団と「連携協力に関する協定」を締結しました。病院所属職員を大学の連携指導教授等として委嘱し、病院所属医師が職場で働きながら学位取得・臨床研究が可能になるなど、社会健康医学に関する教育や研究の一層の連携を図ります。



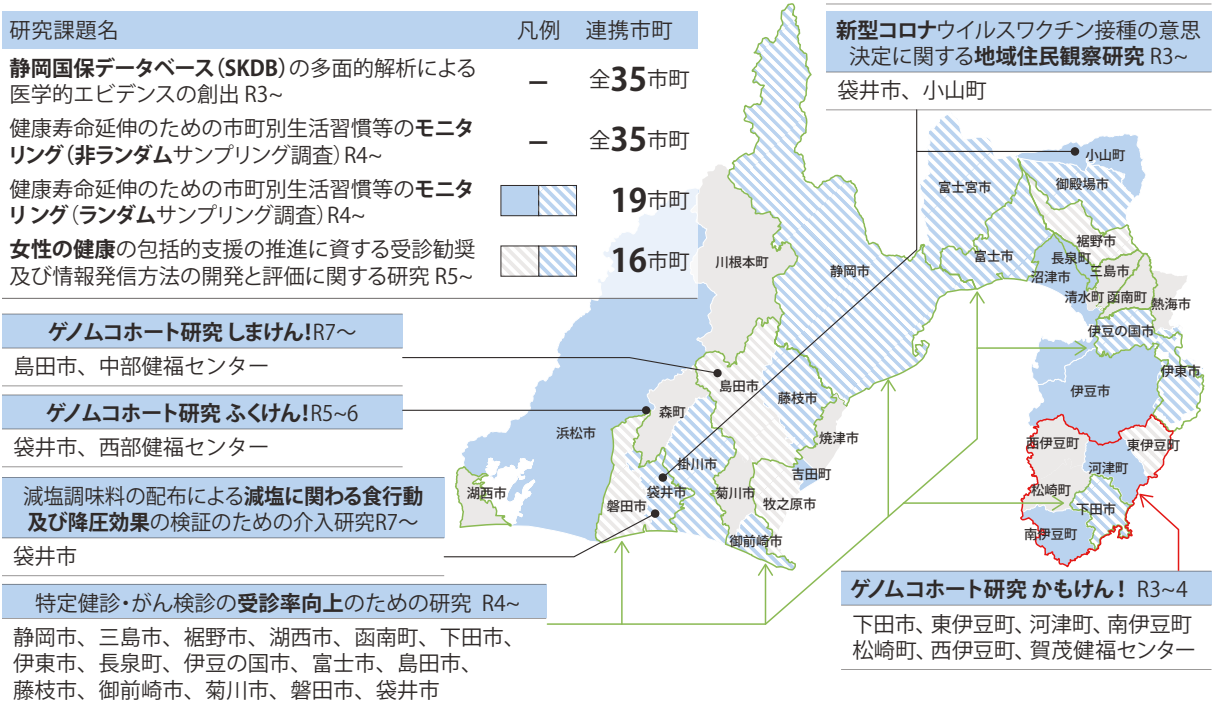
（静岡県立病院機構）



（掛川市・袋井市病院企業団）

連携 1 市町をフィールドとした研究

- 県内全市町との連携により研究成果の社会実装を目指す多様な研究を展開
- 地域をフィールドとした研究が市町の協力により年々増加



連携 2 市町・県機関の委員やアドバイザーとして参画

- 社会健康医学の学識を行政施策に役立てるため、豊富な研究実績や知見を持つ専任教員が多くの市町・県機関で活躍

県内の行政機関との関わり(主なもの)

区分	市町・県機関	協議会等の役職・講演会の名称	教員名
市町	静岡市	がん検診精度管理協議会委員	山本教授
	静岡市	国民健康保険特定健康診査等実施計画推進協議会委員	溝田准教授
	富士市	富士市健康づくり推進協議会委員	溝田准教授
	沼津市	食育推進計画策定懇話会委員	山本教授
	袋井市	袋井市総合計画審議会委員	山本教授
	御前崎市	健康づくり推進協議会アドバイザー、健康づくり推進協議会委員	山本教授
	東伊豆町	健康づくり推進協議会構成委員	溝田准教授
	小山町	行政アドバイザー	菅原教授
	藤枝市	藤枝市新産業創造戦略委員会委員	山本教授
	伊豆の国市	歯と口の健康づくり推進委員	佐藤(洋)講師
県関係	賀茂健康福祉センター	健康増進指導技術連絡会講師	山本教授、佐藤(洋)講師
	中部健康福祉センター	健康増進関係事業情報交換会(がん検診に係る助言)	山本教授
	西部健康福祉センター	地域保健福祉研究会講評及び助言者	佐藤(洋)講師
	ふじのくに健康増進計画推進協議会委員		山本教授
	健康福祉部	静岡県国民健康保険運営協議会委員	溝田准教授
		女性の健康支援タスクフォース委員	溝田准教授
	経済産業部	静岡ウェルネスプロジェクトアドバイザー	山本教授

他大学との連携

国立大学法人弘前大学

相互に所有する研究資源を両組織の研究活動全般に活用することで、相互の研究交流を促進するとともに、両組織の学術研究の一層の充実を図るため、国立大学法人弘前大学と、コホート研究を柱にした学術研究交流に関する協定を締結しました。

期間 2023年6月1日～2027年3月31日（4年間）

連携する学術研究交流事項

- 1 コホート事業の高度化のための研究連携
- 2 研究成果の社会実装を推進するための基盤強化
- 3 URAを含む研究支援人材や若手研究者の育成と人材交流



弘前大学

浙江大学医学院公共卫生学院

本学初の国際交流協定を、静岡県と長年友好提携関係にある中国・浙江省の浙江大学医学院公共卫生学院と締結しました。本協定は、相互平等と互惠の精神に基づき、両機関の学術協力と交流を促進することを目的としています。協定締結に際して記念講演会を開催し、両大学の紹介と代表的な研究に関する発表を行い、学術交流の端緒を開きました。

期間 2024年10月24日～2029年10月23日（5年間）

連携する学術研究交流事項

- 1 講義や共同研究等を目的とした教員の交流
- 2 学生交流プログラム等の実施による学生の交流
- 3 相互に関心のある分野における共同研究・事業の協力



静岡理科大学

社会健康医学分野を中心とする学術交流において、広く相互に協力することにより、教育、研究の推進に寄与することを目的として、静岡理科大学と学術交流に関する協定を締結しました。

期間 2025年11月13日～2028年3月31日（3年間）

連携する学術研究交流事項

- 1 学生及び教職員の交流
- 2 学生の教育
- 3 学術研究及び共同研究
- 4 研究設備の相互利用



成果の還元

住民の健康寿命の延伸に資する研究課題を科学的に分析し、県や市町健康増進施策、疾病予防対策の政策形成や各種施策の推進を積極的に支援しています。

また、研究成果を地域に還元していくことは、国内外にも大きな波及効果を生むことから、県や市町とともに、住民が自らの健康を意識し主体的に健康増進活動に取り組めるよう、研究成果を住民に分かりやすく情報提供しています。

PROJECT 1

地域と連携し、住民の健康づくりと、予防医学研究に貢献

静岡多目的コホート事業

静岡県の様々な地域において、住民を対象に5年ごとに健診を実施。健診データを研究に活用して、病気の予防方法の開発につなげるプロジェクト。



島田地域で実施した「静岡多目的コホート事業島田健康長寿研究」のフィールド調査で収集した臨床情報等を活用した研究を推進しました。

島田市において、高齢者の低BMIに起因する低筋量の対策が必要であることを提示し、次年度以降、市と協働し筋量を高める予防介入事業に取り組むこととしました。



特定健診・がん検診の受診率向上の取組

特定健診及びがん検診の受診率向上に関心の高い市町（静岡市、三島市、裾野市、湖西市、函南町、伊東市、富士市、磐田市、藤枝市、袋井市、下田市、御前崎市、伊豆の国市）に対し、分析結果に基づき、受診率向上に効果があると考えられる施策を市町とともに立案し、実施可能な施策を実施しました。

フォーラム、セミナー、公開講座

地域の方々が、自らの健康を意識し、主体的に健康増進活動に取り組む機運を醸成するため、フォーラムやセミナー、公開講座を開催しています。



2025年11月、県主催(大学共催)で「脳卒中から身を守る術」をテーマに県民健康講演会を開催しました。
(参加者数126名、オンデマンド再生回数550回)



2025年12月、静岡理工科大学との学術連携協定締結を記念して、共催で「医工連携でつむぐ安心して楽しく老いる街づくり」をテーマに、県民公開講座を開催しました。
(参加者数:オンライン含め103名)



2026年3月、「飲酒の不都合な真実」及び「病気になる前に共に歩める医療者の選び方〜患者さんと医療者の新しいコミュニケーションの形〜」をテーマとした公開講座を開催しました。
(参加者数:オンライン含め111名)



■ 学生ホール

陽光あふれる広々とした空間で、学外の方々との交流に最適です。

キャンパス紹介

■ 講義室2



授業で主に使用する教室です。

■ 演習室2



小人数の演習や授業で使用されている、使い勝手の良い教室です。

■ 図書館



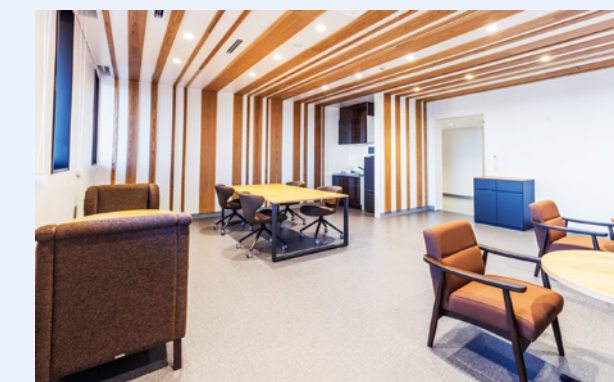
図書館の利用は24時間可能で、本の貸出・返却は無人で行われています。本学は電子ジャーナルが充実しており、学生や教員は主にそちらを使用している関係で、図書館には、基本的な書籍・資料を配架しています。

■ 院生室



院生一人ひとりに机を用意しています。授業の合間や特別研究で使われています。

■ ラウンジ



各階に、歓談や飲食が可能なラウンジを設けています。

財務状況等

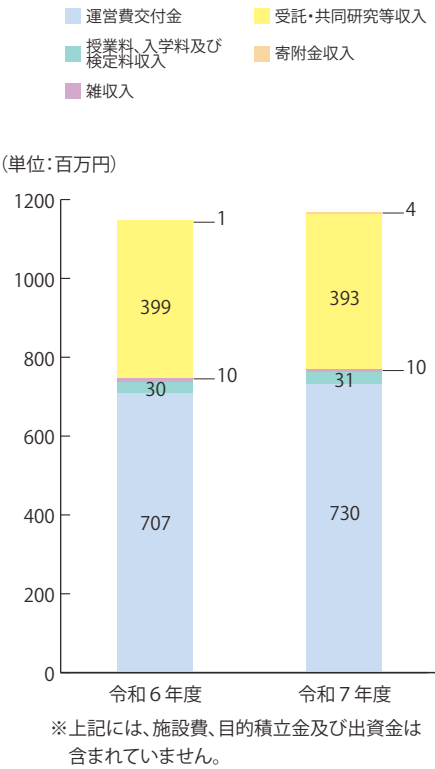
主な運営財源の推移

令和7年度の主な運営財源（受入額）は、前事業年度より22百万円増加し、1,170百万円となりました。主な要因は、庁舎管理費等の高騰に伴う運営費交付金の増加です。

(単位:百万円)

	令和6年度	令和7年度	増減
運営費交付金	707	730	23
授業料、入学科及び検定料収入	30	31	1
雑収入 (うち 科研費間接経費)	10 (9)	10 (8)	0 (△1)
受託・共同研究等収入	399	393	△6
寄附金収入	1	4	3
計	1,148	1,170	22

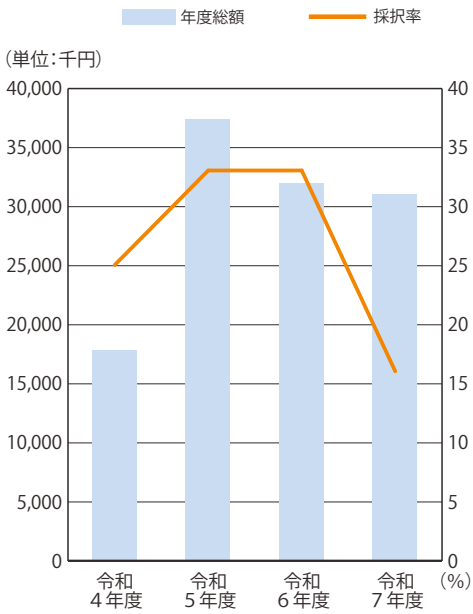
※金額は百万円未満を切捨しているため、合計金額と一致しない。



科研費獲得状況

(単位:円)

区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
基盤研究(A)	8,840,000	8,840,000	8,840,000	8,840,000
基盤研究(B)	897,000	11,945,000	5,505,000	6,420,000
基盤研究(C)	4,678,000	7,091,669	4,524,000	6,175,000
若手研究	1,170,000	4,290,000	1,950,000	474,256
挑戦的研究(開拓)	0	2,872,000	8,104,000	7,150,000
挑戦的研究(萌芽)	2,210,000	2,340,000	1,690,000	590,000
特別研究員奨励費	0	0	1,300,000	1,300,000
計	17,795,000	37,378,669	31,913,000	30,949,256
採択率	25%	33%	33%	16%



公立大学法人静岡社会健康医学大学院大学への寄附について

皆様からの寄附金は、次のような用途に活用させていただきます。

区分	
大学の支援	教育活動等、地域貢献活動、学習環境の整備、大学の運営に要する経費等
修学支援事業	経済的理由により修学が困難な学生の支援 学生又は不安定な雇用状態にある研究者の雇用及び研究への支援
奨学寄附金	学術研究の推進

寄附講座の開設	
区分	内容
講座名	ウェルネスみらい講座(タイカ)
講座開設期間	R6～8年度
金額	90,000,000円
研究の目的及びテーマ	「長寿ウェルネス」に寄与することを目指す 【主なテーマ】 褥瘡の実態調査やその発生機序、創傷治癒機転等に関する基礎研究と臨床への応用、医薬品、医療材料、医用工学機器などの開発、褥瘡に悩む患者さんや家族への啓発・心のケアなどに貢献すること
特定教員	2名



株式会社タイカ様より100万円の寄付をいただきました。
令和3年度から5年連続の申し出を受け、多大なる貢献をいただいております。

寄附についての詳細は、こちらをご参照ください。
<https://s-sph.ac.jp/disclosure/donation/>

2025.5

財務情報

貸借対照表の概要

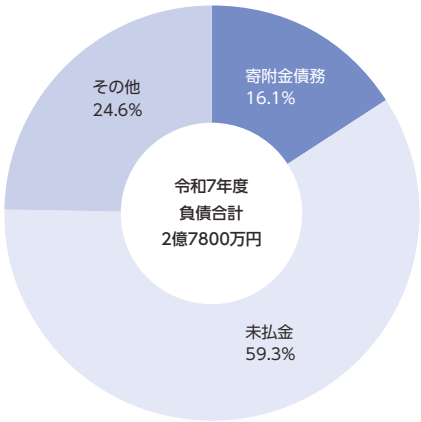
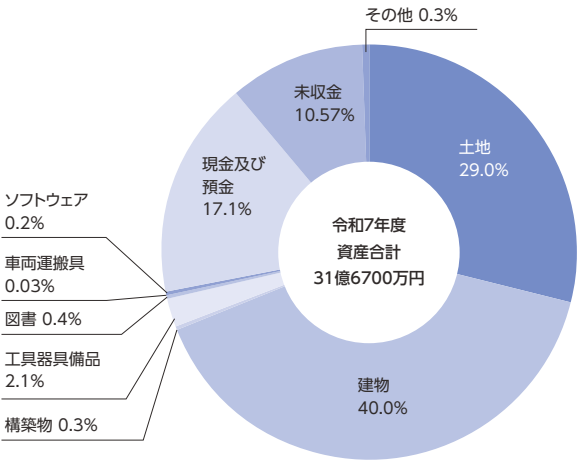
(単位:百万円)

資産の部	令和6年度	令和7年度	増減
土地	920	920	0
建物	1,413	1,267	△146
構築物	8	8	0
工具器具備品	110	65	△45
図書	12	13	1
車両運搬具	1	1	0
ソフトウェア	19	7	△12
現金及び預金	427	540	113
未収金	338	334	△4
その他	8	10	2
資産合計	3,260	3,167	△93

(単位:百万円)

負債の部	令和6年度	令和7年度	増減
長期寄附金債務	30	—	△30
寄附金債務	38	44	6
未払金	154	164	10
その他	49	68	19
負債合計	271	278	7
純資産の部	令和6年度	令和7年度	増減
資本金	2,640	2,640	0
資本剰余金	△234	△400	△166
利益剰余金	533	575	42
当期末処分利益	50	74	24
純資産合計	2,988	2,889	△99
負債・純資産合計	3,260	3,167	△93

※金額は百万円未満を切捨しているため、合計金額と一致しない。



キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)

	令和6年度	令和7年度	増減
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	79	127	48
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△7	△14	△7
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	—	—	—
IV 資金増加額(又は減少額)	72	112	40
V 資金期首残高	355	427	72
VI 資金期末残高	427	540	113

※金額は百万円未満を切捨している。

損益計算書の概要

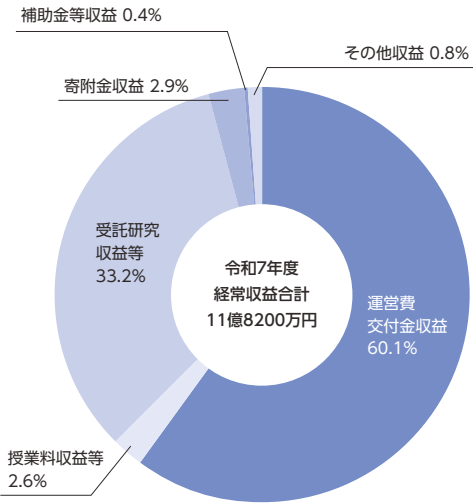
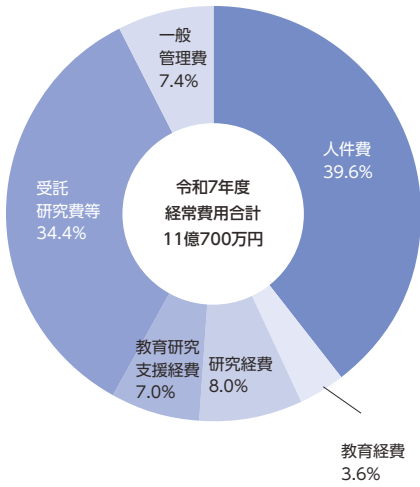
(単位:百万円)

	令和6年度	令和7年度	増減
経常費用			
人件費	418	438	20
教育経費	44	40	△4
研究経費	97	88	△9
教育研究支援経費	93	77	△16
受託研究費等	394	380	△14
一般管理費	79	82	3
経常費用合計	1,129	1,107	△22
計	1,129	1,107	△22

(単位:百万円)

	令和6年度	令和7年度	増減
経常収益			
運営費交付金収益	707	710	3
授業料収益等	29	31	2
受託研究収益等	405	392	△13
寄附金収益	26	34	8
補助金等収益	—	4	4
その他収益	10	10	0
経常収益合計	1,179	1,182	3
計	1,179	1,182	3
当期総利益	50	74	24

※金額は百万円未満を切捨しているため、合計金額と一致しない。



利益の処分にに関する書類

(単位:百万円)

	令和6年度
I 当期末処分利益(当期総利益)	50
II 利益処分別	
(1) 積立金	50
(2) 目的積立金	—

※金額は百万円未満を切捨しているため、合計金額と一致しない。

原著論文（査読あり）

【筆頭著者・責任著者・最終著者】

1. Yamasaki K, Hayashi N, Hayashi H, Fukuya Y, Horiuchi Y, Kobayashi M, Nobeyama Y, Omatsu J, Tsunoda K, Miyachi Y. An Attempt to Establish the Consensus Regarding the Diagnosis, Classification, and Treatment of Rosacea in Japan Using a Modified Delphi Method: The Japan Rosacea Consensus. The Journal of Dermatology. 2026;53(4):605-618. doi:10.1111/1346-8138.70213

2. Akasaka H, Tabara Y, Fukuma K, Hiromine Y, Takata Y, Fukuda M, Katsuya T, Ihara M, Osawa H, Ikegami H, Igase M, Rakugi H, Sugimoto K. Association between plasma mid-regional pro-adrenomedullin levels and muscle properties. Geriatrics Gerontology Int. 2025;25(10):1418-1424. doi:10.1111/ggi.70155

3. Tabara Y, Shoji-Asahina A, Sato Y. Association of Body Weight Changes Over 1 Year With the Incidence of Functional Disability and All-Cause Mortality in Older Adults: The Shizuoka Kokuho Database Study. Journal of the American Medical Directors Association. 2025;26(12):105904. doi:10.1016/j.jamda.2025.105904

4. Kito K, Kato M, Kurita Y, Nakano W, Nakano S, Takagi D, Tsukamoto T, Ozaki E, Kushida O, Tanaka Y, Kuriyama N, Tabara Y. Bioimpedance Analysis-Assessed Skeletal Muscle Mass Index Is Strongly Correlated With Computed Tomography-Measured Mid-Thigh Skeletal Muscle Cross-Sectional Area: The Shizuoka Study. Geriatrics Gerontology Int. 2026;26(1):e70309. doi:10.1111/ggi.70309

5. Kojimahara N, Kiyohara K, Sato Y, Wake K, Taki M, Castano-Vinyals G, Yamaguchi N, The Study Group of MOBI-Kids Japan. Brain Tumor and Mobile Phone Risk Among Young People: Analysis of Japanese People Using the MOBI-Kids International Case-Control Study. Bioelectromagnetics. 2025;46(8):e70032. doi:10.1002/bem.70032

6. Ogawa A, Shoji-Asahina A, Kawaguchi T, Nakayama T, Matsuda F, Tabara Y. Chlamydia pneumoniae Seropositivity is Associated with Cardiovascular Events in the General Population: The Nagahama Study. JAT. 2026;33(4):428-440. doi:10.5551/jat.65868

7. Satoh T, Nakatani E, Ariyasu H, Saito C, Oshiro Y, Ohata E, Itoh H, Hayashi K, Usui T. Development and validation of a type 2 diabetes mellitus prediction tool using a large Japanese regional insurance claims database. Sci Rep. 2025;15(1):37968. doi:10.1038/s41598-025-21831-8

8. Honda K, Furukawa S. Effects of cues and modulation depth on the measurement of modulation masking pattern. JASA Express Letters. 2026;6(1):014401. doi:10.1121/10.0042176

9. Tabara Y, Kushida O, Ozaki E, Kuriyama N, Urano T. Effects of room temperature on home morning, evening, and sleep blood pressure: the Shizuoka study. Journal of Hypertension. 2026;44(1):109-115. doi:10.1097/HJH.00000000000004154

10. Higuchi D, Nagao-Sato S, Takeuchi M, Takahashi Y, Shinohara T. Effects of sarcopenia, low physical activity, and malnutrition on the progression of frailty in community-dwelling older adults attending community activity groups in Japan: a prospective cohort study protocol. Preventive Medicine Research. Preprint posted online January 1, 2026:4. doi:10.60219/pmr.3.4_139

11. Kishida S, Nakatani E, Usui T, Fujimoto S, Yamamoto S, Miyachi Y. Epidemiological insights and healthcare challenges of tuberosus sclerosis complex in Shizuoka Prefecture: a retrospective cohort study. Orphanet J Rare Dis. 2025;20(1):245. doi:10.1186/s13023-025-03799-w

12. Satoh T, Tanaka Y, Nakatani E, Ariyasu H, Kawaguchi S, Ohno K, Itoh H, Hayashi K, Usui T. Identifying risk factors of biliary tract cancers using a large Japanese regional insurance claims database. Sci Rep. 2025;15(1):24347. doi:10.1038/s41598-025-09790-6

13. Hashizume H, Matsuura A, Miyachi Y. Late-Onset Anaphylaxis and Tick Exposure: Epidemiological Insights From Shizuoka. Allergy. 2025;80(11):3209-3211. doi:10.1111/all.70049

14. Yamagishi S, Furukawa S. Microsaccade Direction Reveals the Variation in Auditory Selective Attention Processes. J Neurosci. 2025;45(45):e1623242025. doi:10.1523/JNEUROSCI.1623-24.2025

15. Ikka T, Hatta T, Katsumata N, Takayama T, Shimoi T, Fujita M. Oncologists' Views and Communication Practices Regarding Unproven High-Cost Cancer Interventions in Private Medical Practice: A Questionnaire Survey. Cancer Control. 2025;32:10732748251391856. doi:10.1177/10732748251391856

16. Tabara Y, Shoji-Asahina A, Sato Y, Kawaguchi T, Nakayama T, Matsuda F. Prognostic Significance of the Estimated Small Dense Low-Density Lipoprotein Cholesterol Levels in Predicting the Incidence of Coronary Artery Disease: The Nagahama Study and Shizuoka Kokuho Database Study. JAT. Published online 2026:65926. doi:10.5551/jat.65926

17. Morizane T, Kawai F, Kojimahara N. Proposed New Definitions of Practice Guidelines for Health and Health Care. JMA J. 2025;8(4). doi:10.31662/jmaj.2025-0066

18. Takeuchi M. Queries and Comment to the Article by Ichikawa et al. The American Journal of Clinical Nutrition. 2026;123(1):101111. doi:10.1016/j.ajcnut.2025.10.025

19. Nagao-Sato S, Kushida O, Kurita Y, Ozaki E, Kuriyama N, Kato M, Akamatsu R, Goda T, Tabara Y. Sex Differences in the Association Between Masticatory Function and Sarcopenia Components: The Shizuoka Study. Nutrients. 2025;17(6):968. doi:10.3390/nu17060968

20. Tabara Y. Sleep blood pressure and cardiovascular events in men and women. Journal of Hypertension. 2025;43(2):366. doi:10.1097/HJH.00000000000003913

21. Nakano W, Kato M, Nakano S, Kurita Y, Kito K, Kushida O, Ozaki E, Tanaka Y, Kuriyama N, Tabara Y. Usefulness of the bioimpedance phase angle in identifying older adults with poor muscle properties: The Shizuoka study. Clinical Nutrition ESPEN. 2026;72:102958. doi:10.1016/j.clnesp.2026.102958

22. 齋藤弓子, 小郷祐子, 高橋朋子, 櫻井雅代, 志賀久美子, 八巻知香子, 高山智子. がん専門相談員の初期研修の提供機会拡大の試み 研修提供効果の定量的・定性的評価. 医療の質・安全学会誌. 2026;21(1):12-23.

23. 大嶋美智子, 天笠崇, 山崎浩司. 高機能発達障害の子をもつ母親が、子の就労上のつまづきをきっかけに、行政支援につながるまでのプロセス. 日本地域看護学会誌. Preprint posted online 2025:1. doi:10.20746/jachn.28.1_31

24. 佐藤清香, 佐藤洋子, 田原康玄. 静岡県における低体重高齢者の頻度と分布. 東海公衆衛生雑誌. Preprint posted online March 2026:2. doi:10.24802/tpha.2025-08

25. 佐藤清香. 河嵩唯衣, 赤松利恵, 谷内ななみ, 久称田珠暉, 土井音奏, 石川葉菜. 地域在住高齢者を対象としたフレイル予防運動教室に「ちょい足し」した栄養教育プログラムの実現可能性. 日本健康教育学会誌. Preprint posted online August 2025:3. doi:10.11260/kenkokyoiku.33.209

26. 佐藤洋子. 安藤雄一, 小畑充彦, 種村崇. 特定健診受診者における歯科受診と咀嚼状態の改善との関連: 静岡県国保データベースを用いた後ろ向きコホート研究. 口腔衛生学会雑誌. Preprint posted online 2025:4. doi:10.5834/jdh.75.4_208

【その他】

1. Vaupotič N, Grellier J, Martin L, Domènech Panicello C, Goszczyńska E, Kojimahara N, Polariška K, Bauer O, Mori H, Yamaguchi-Sekino S, Guxens M, White MP. 5G technology, health and society: misconceptions, blind spots and insights from experts, non-experts, and self-identified electrosensitive individuals. Journal of Risk Research. 2025;28(5):446-470. doi:10.1080/13669877.2025.121074

2. Kosugi R, Usui T, Inoue T, Ariyasu H. A Case of a Heterozygous Female Patient With Ornithine Transcarbamylase (OTC) Deficiency Successfully Treated by Liver Transplantation in Adulthood. Cureus. Published online July 14, 2025. doi:10.7759/cureus.87892

3. Kondo E, Makimura M, Hayashi K, Kawakami K, Usui T, Yoshizato T. A Decade-Long Diagnostic Challenge: A Case of Nonclassical 21-Hydroxylase Deficiency Mistaken for Polycystic Ovary Syndrome. J of Obstet and Gynaecol. 2026;52(2):e70191. doi:10.1111/jog.70191

4. Nakao S ya, Miyake M, Fujiwara K, Nakano E, Mori Y, Morino K, Hosoda Y, Nagahama Study Group, Nakayama T, Sekine A, Kosugi S, Tabara Y, Akiyama M, Yamashiro K, Tamura H, Hata J, Ninomiya T, Matsuda F, Sonoda KH, Tsujikawa A. A genome-wide association between foveal thickness and arrhythmia. Commun Med. 2025;5(1):374. doi:10.1038/s43856-025-01087-z

5. Nagarajan P, Winkler TW, Bentley AR, Miller CL, Kraja AT, Schwander K, Lee S, Wang W, Brown MR, Morrison JL, Giri A, O’ Connell JR, Bartz TM, De Las Fuentes L, Gudmundsdottir V, Guo X, Harris SE, Huang Z, Kals M, Kho M, Lefevre C, Luan J, Lyttikäinen LP, Mangino M, Milaneschi Y, Palmer ND, Rao V, Rauramaa R, Shen B, Stadler S, Sun Q, Tang J, Thériault S, Van Der Graaf A, Van Der Most PJ, Wang Y, Weiss S, Westerman KE, Yang Q, Yasuharu T, Zhao W, Zhu W, Altschul D, Ansari MAY, Anugu P, Argoty-Pantoja AD, Arzt M, Aschard H, Attia JR, Bazzanno L, Breyer MA, Brody JA, Cade BE, Chen H hsin, Chen YDI, Chen Z, De Vries PS, Dimitrov LM, Do A, Du J, Dupont CT, Edwards TL, Evans MK, Faquih T, Felix SB, Fisher-Hoch SP, Floyd JS, Graff M, Gu C, Gu D, Hairston KG, Hanley AJ, Heid IM, Heikkinen S, Highland HM, Hood MM, Kähönen M, Karvonen-Gutierrez CA, Kawaguchi T, Kazuya S, Kelly TN, Komulainen P, Levy D, Lin HJ, Liu PY, Marques-Vidal P, McCormick JB, Mei H, Meigs JB, Menni C, Nam K, Nolte IM, Pacheco NL, Petty LE, Polikowsky HG, Province MA, Psaty BM, Raffield LM, Raitakari OT, Rich SS, Riha RL, Risch L, Risch M, Ruiz-Narvaez EA, Scott RJ, Sitlani CM, Smith JA, Sofer T, Teder-Laving M, Völker U, Vollenweider P, Wang G, Willems Van Dijk K, Wilson OD, Xia R, Yao J, Young KL, Zhang R, Zhu X, Below JE, Böger CA, Conen D, Cox SR, Dörr M, Feitosa MF, Fox ER, Franceschini N, Gharib SA, Gudnason V, Harlow SD, He J, Holliday EG, Kutalik Z, Lakka TA, Lawlor DA, Lee S, Lehtimäki T, Li C, Liu CT, Mägi R, Matsuda F, Morrison AC, Penninx BW, Peyser PA, Rottler JJ, Snieder H, Spector TD, Wagenknecht LE, Wareham NJ, Zonderman AB, North KE, Fornage M, Million Veteran Program, Muralidhar S, Moser J, Deen JE, Tsao PS, Gaziano JM, Hauser E, Kilbourne A, Matheny M, Oslin D, Churby L, Whitbourne SB, Brewer JV, Shayan SA, Selva LE, Pyarajan S, Cho K, DuVall SL, Brophy MT, Stephens B, Connor T, Argyres DP, Assimes TL, Hung A, Kranzler H, Aguayo S, Ahuja S, Alexander K, Androulakis XM, Balasubramanian P, Ballas Z, Bast ES, Beckham J, Bhushan S, Boyko E, Cohen D, Dellitalia L, Dryden GW, Faulk LC, Fayad J, Fujii D, Gappy S, Gesek F, Greco J, Godschalk M, Gress TW, Gupta S, Gutierrez S, Harley J, Hammer M, Hogan DJ, Hurley R, Iruvanti P, Jacono F, Jhala D, Kinlay S, Landry M, Liang P, Liangpunsakul S, Lichy J, Lo TS, Mahan CS, Marrache R, Mastorides S, Mattocks K, Meyer P, Moorman J, Morales P, Morgan T, Murdoch M, Naik E,

基礎データ

学生数（2025年5月1日現在）

社会健康医学研究科		収容定員	在学生数
博士前期課程	1 年	10人	16人
	2 年	10人	21人
小 計		20人	37人
博士後期課程	1 年	2人	4人
	2 年	2人	5人
	3 年	2人	6人
小 計		6人	15人
計		26人	52人

教職員数（2025年5月1日現在）

学長	副学長	教授	准教授	講師	特定教授	特定助教	教員計	事務職員	合計
1	1※	15	5	4	1	1	27	17	44

※副学長は非常勤のため、教員計からは除いている。

修了者数及び進学・就職等の状況

修了時期	修了者数	所属先で勤務継続			就 職 希望者	就 職 決定者	就 職 内定率 (%)	本学の博士後期課程に進学
		医療機関	企業等	小計				
博士前期課程								
2023年3月	15	12	3	15	0	—	—	4
2024年3月	17	6	8	14	3	3	100	3
2025年3月	15	9	3	12	3	3	100	2
2026年3月	18	8	7	15	3	3	100	1
博士後期課程								
2026年3月	3	1	1	2	1	1	100	—

論文件数等（筆頭・最終・責任著者、代表発表者）

査読付原著論文（筆頭・最終・責任著者）	26報
総説（筆頭著者）	7報
国際学会発表等（代表発表者）	7件
国内学会総会発表等（代表発表者）	42件
計	82件

筆頭著者や代表発表者等以外の論文等発表実績

査読付原著論文（筆頭・最終・責任著者以外）	53報
総説（筆頭著者以外）	1報
国際学会発表等（共同発表者）	0件
国内学会総会発表等（共同発表者）	45件

※本学の所属を明記していない論文等は除きます。

※学会発表は、ポスター発表を除きます。

- Norton J, Okusaga O, Ong MK, Oursler KA, Petrakis I, Poon S, Potter E, Rauchman M, Rai AS, Servatius R, Sharma S, Smith R, Sriram P, Strollo P, Tandon N, Villareal G, Walsh J, Wells J, Whittle J, Whooley M, Wilson P, Xu J, Yeh SS, Yen AW, Hung AM, Manning AK, Gauderman J, Chen H, Munroe PB, Rao DC, Van Heemst D, Redline S, Noordam R, Wang H. A large-scale genome-wide study of gene-sleep duration interactions for blood pressure in 811,405 individuals from diverse populations. *Mol Psychiatry*. 2025;30(8):3660-3672. doi:10.1038/s41380-025-02954-w
6. Xiang R, Muraoka Y, Kogo T, Hidaka Y, Mori Y, Hata M, Miyake M, Morita S, **Tabara Y**, Matsuda F, Tsujikawa A. Age-Related Associations of Blood Pressure and Arterial Stiffness with Retinal Arterial Structure. *Ophthalmology Science*. 2026;6(1):100957. doi:10.1016/j.xops.2025.100957
7. Fujihira H, Higashi R, Yamagishi S, **Furukawa S**, Kashino M, Mori S. Altered Paired-Click Auditory Brainstem Responses in Normal-Hearing Young Adults With Frequent Loud Sound Exposure. *Trends in Hearing*. 2026;30:23312165261417086. doi:10.1177/23312165261417086
8. Nakazawa S, Furuya Y, Sakai K, Fukai K, Sano K, Hoshi K, **Kojimahara N**, Toyota A, Korenaga M, Tatemichi M. Association between occupational class, alcohol consumption, and the risk of hospitalisations due to alcoholic liver diseases: a matched case-control study. *BMC Public Health*. 2025;25(1):1445. doi:10.1186/s12889-025-22715-2
9. Kamei T, Miyake M, Sado K, Morino K, Mori Y, **Tabara Y**, Matsuda F, Tamura H, Tsujikawa A. Association between the retinal age gap and systemic diseases in the Japanese population: the Nagahama study. *Jpn J Ophthalmol*. 2025;69(4):616-623. doi:10.1007/s10384-025-01205-3
10. Hayashi A, Mizuno K, Shinkawa K, Sakoda K, Yoshida S, **Takeuchi M**, Yanagita M, Kawakami K. Association between tonsillectomy plus steroid pulse therapy and renal outcomes in patients with IgA nephropathy: a retrospective cohort study. *BMC Nephrol*. 2025;26(1):484. doi:10.1186/s12882-025-04408-5
11. Shinohara T, Takahashi Y, **Takeuchi M**, Nagao-Sato S, Higuchi D. Associations between social capital, health status, and physical and social frailty among older adults: A cross-sectional analysis of the Gunma aging cohort. *Archives of Gerontology and Geriatrics Plus*. 2026;3(1):100255. doi:10.1016/j.aggp.2026.100255
12. Xiang R, Muraoka Y, Murase K, Kogo T, Sato S, Hidaka Y, Akada M, Mori Y, Hata M, Miyake M, Nagasaki T, Matsumoto T, Sunadome H, Hamada S, Takahashi N, Wakamura T, Komenami N, **Tabara Y**, Morita S, Hirai T, Matsuda F, Chin K, Tsujikawa A. Associations of sleep duration and nocturnal oxygenation with OCT-derived retinal arterial structure. *Microvascular Research*. 2026;165:104912. doi:10.1016/j.mvr.2026.104912
13. Minami S, Kida A, Inoue S, Murakami H, Morita N, Takagi A, **Usui T**, Sugiuchi T, Yamazawa K, Nara K, Mutai H, Matsunaga T. Auditory neuropathy spectrum disorder and related auditory features in patients with hearing loss associated with the MT-TS1 m.7471dup variant. *Mitochondrion*. 2025;84:102056. doi:10.1016/j.mito.2025.102056
14. Katanasaka Y, Sunagawa Y, Sakurai R, Tojima M, Naruta R, Hojo Y, Kawase Y, Hamabe-Horiike T, **Mori K**, Hasegawa K, Morimoto T. Cardiac-specific overexpression of PRMT5 exacerbates pressure overload-induced hypertrophy and heart failure. *J Biomed Sci*. 2025;32(1):61. doi:10.1186/s12929-025-01162-6
15. Matsunuma R, **Kinoshita K**, Imada S, Sato S, Hayami R, Tsuneizumi M. CD44 knockdown and TGF- β inhibition modulate cell proliferation and invasion in claudin-low breast cancer cells. *Oncol Rep*. 2025;55(1):1-14. doi:10.3892/or.2025.9012
16. Toyoshima K, Mori R, Nishida T, **Sasaki H**, Mitsuhashi H, Saito T, Shimokaze T, Aoki H, Yonemoto N, Kono Y, Uchiyama A, Fujimura M, Kusuda S, INTACT Study Group. Cluster-randomized evaluation of neonatal intensive care unit quality improvement interventions in extremely preterm infants: secondary analysis of the INTACT trial. *BMC Pediatr*. 2026;26(1):5. doi:10.1186/s12887-025-06351-8
17. Yoshihara K, Seyama S, Hayashi N, **Horiuchi Y**, Ishida W, Yasuda T, Hou I, Shimada T, Murakami S, Kakuta M, Sugai J, Watanabe M, Ishii A, Nomoto M, Ichimiya H, Tanaka N, Takeo C, Kasugai K, Kobayashi M, Kimura U, Kohno M, Nakazaki E, Murase C, Ban Y, Fukano Y, **Miyachi Y**, Nakaminami H. Combination Effects of Clindamycin and Benzoyl Peroxide Against Cutibacterium acnes. *The Journal of Dermatology*. 2026;53(3):528-531. doi:10.1111/1346-8138.70170
18. Arima D, **Sato Y**, **Tanaka Y**. Comparison of Extended Arch Versus Hemiarch Replacement in Elderly Patients With Type A Aortic Dissection: The Shizuoka Kokuho Database. *Interdisciplinary CardioVascular and Thoracic Surgery*. 2026;41(1):ivag017. doi:10.1093/icvts/ivag017
19. Nagasaki T, Sato S, Murase K, Sunadome H, Hamada S, Matsumoto T, Takahashi N, Muraki M, Kawaguchi T, **Tabara Y**, Matsuda F, Matsumoto H, Hirai T, Chin K. COPD-sleep-disordered breathing overlap and vascular risk markers in non-obese adults: The Nagahama study. *Respiratory Medicine*. 2026;255:108777. doi:10.1016/j.rmed.2026.108777
20. Mizuno K, Kishimoto Y, **Takeuchi M**, Omori K, Kawakami K. Demographic and Clinical Trends in Adult Tracheostomy: Analysis of a Japanese Inpatient Database. *The Laryngoscope*. 2025;135(8):2720-2730. doi:10.1002/lary.32206
21. Shintani T, Nakatani E, Kaneda H, Hawke P, Obara H, **Usui T**. Editor's Choice-Comparison of Prognosis in Chronic Limb Threatening Ischaemia after Revascularisation versus Non-revascularisation Treatment: Analysis of Japanese Regional Insurance Claims. *European Journal of Vascular and Endovascular Surgery*. 2025;70(6):800-808. doi:10.1016/j.ejvs.2025.05.036
22. Ueda K, Takeshita M, Takahashi Y, **Sasaki H**, Ozu N, Nakayama T. Effect of a multifaceted intervention with audit and feedback on low-risk childbirth practice: a multicentre prospective study. *BMC Pregnancy Childbirth*. 2025;25(1):571. doi:10.1186/s12884-025-07681-2
23. Akagawa Y, **Hatta T**, Osawa K, Narita M, Endo K, Andoh H, Makabe S. Elementary school teachers' support for children with a parent who has cancer in Japan. *JHSCI*. 2025;15(2):76-81. doi:10.17532/jhsci.2025.2812
24. Hagiwara R, Nakatani E, Kaneda H, Okada H, **Hashizume H**, **Kuriyama N**, **Sugawara A**. Estimating Risks of Central Nervous System Disturbance Associated with Medications for Herpes Zoster: Findings from a Regional Population-Based Cohort Study Using the Shizuoka Kokuho Database. *Drugs - Real World Outcomes*. 2025;12(3):399-410. doi:10.1007/s40801-025-00500-2
25. Sano M, **Mori H**, Kuriyama A, Imura H, Nishimura M, Toyama M, Nakayama T. Exploring perceptions of work motivation through the experiences of healthcare professionals who provided end-of-life care during the COVID-19 pandemic (PRECA-C project): a qualitative study. *Hum Resour Health*. 2025;23(1):28. doi:10.1186/s12960-025-00997-2
26. **Hashizume H**, **Matsuura A**. Ishikawa Y, Hata A. Flounder Roe Triggering α -Gal Syndrome: Hyosophorin as a Possible Allergen. *Acta Derm Venereol*. 2025;105:adv42664. doi:10.2340/actadv.105.42664
27. Noordam R, Wang W, Nagarajan P, Wang H, Brown MR, Bentley AR, Hui Q, Kraja AT, Morrison JL, O' Connel JR, Lee S, Schwander K, Bartz TM, De Las Fuentes L, Feitosa MF, Guo X, Hanfei X, Harris SE, Huang Z, Kals M, Lefevre C, Mangino M, Milaneschi Y, Van Der Most PJ, Pacheco NL, Palmer ND, Rao V, Rauramaa R, Sun Q, **Tabara Y**, Vojinovic D, Wang Y, Weiss S, Yang Q, Zhao W, Zhu W, Ansari MAY, Aschard H, Anugu P, Assimes TL, Attia J, Baker LD, Ballantyne C, Bazzano L, Boerwinkle E, Cade B, Chen H hsin, Chen W, Ida Chen YD, Chen Z, Cho K, De Anda-Duran I, Dimitrov L, Do A, Edwards T, Faquih T, Hingorani A, Fisher-Hoch SP, Gaziano JM, Gharib SA, Giri A, Ghanbari M, Grabe HJ, Graff M, Charles Gu C, He J, Heikkinen S, Hixson J, Ho YL, Hood MM, Houghton SC, Karvonen-Gutierrez CA, Kawaguchi T, Kilpeläinen TO, Komulainen P, Lin HJ, Linchango GV, Luik AI, Ma J, Meigs JB, McCormick JB, Menni C, Nolte IM, Norris JM, Petty LE, Polikowsky HG, Raffield LM, Rich SS, Riha RL, Russ TC, Ruiz-Narvaez EA, Sitlani CM, Smith JA, Snieder H, Sofer T, Shen B, Tang J, Taylor KD, Teder-Laving M, Triatni R, Tsai MY, Völzke H, Westerman KE, Xia R, Yao J, Young KL, Zhang R, Zonderman AB, Zhu X, Below JE, Cox SR, Evans M, Fornage M, Fox ER, Franceschini N, Harlow SD, Holliday E, Ikram MA, Kelly T, Lakka TA, Lawlor DA, Li C, Liu CT, Mägi R, Manning AK, Matsuda F, Morrison AC, Nauck M, North KE, Penninx BWjh, Province MA, Psaty BM, Rotter JJ, Spector TD, Wagenknecht LE, Van Dijk KW, Jaquish CE, Wilson PWF, Peyser PA, Munroe PB, De Vries PS, Gauderman WJ, Sun YV, Chen H, Miller CL, Winkler TW, Rao DC, Redline S, Van Heemst D. Genome-wide gene-sleep interaction study identifies novel lipid loci in 732,564 participants. *Atherosclerosis*. 2026;412:120603. doi:10.1016/j.atherosclerosis.2025.120603
28. Shinzato T, Nagai K, Hoshino Y, Fujiwara Y, Yamamoto Y, Morishita A, Okawa T, Ito K, Murakami M, Matsuo K, Tanaka S, **Mori K**. Immunoglobulin A Nephropathy in a Kidney Transplant Recipient with Kabuki Syndrome. *Intern Med*. 2025;64(17):2619-2625. doi:10.2169/internalmedicine.4832-24
29. Wang Y, Guan Y, Feng D, Maccioni L, Parra MA, Peiffer B, Mackowiak B, Kuwabara T, **Mori K**, Mukoyama M, Bataller R, Sun Z, Gao B. Infiltrating macrophages replace Kupffer cells and play diverse roles in severe alcohol-associated hepatitis. *Cell Mol Immunol*. 2025;22(10):1262-1275. doi:10.1038/s41423-025-01343-1
30. Noda M, Yoshida S, Tsuchida T, **Takeuchi M**, Kawakami C, Kawakami K, Ito S, The Japan Environment and Children' s Study Group. Investigating the association between parental educational status and offspring obesity risk using the Japan Environment and Children' s Study. *Pediatric Obesity*. 2025;20(8):e70019. doi:10.1111/ijpo.70019
31. Watanabe R, Nakatani E, Kaneda H, Funaki D, Sobukawa Y, **Tanaka Y**, **Kuriyama N**, **Takeuchi M**, **Sugawara A**. Machine learning-based high-benefit approach versus traditional high-risk approach in statin therapy: the Shizuoka Kokuho database study. *Sci Rep*. 2025;15(1):27627. doi:10.1038/s41598-025-11236-y
32. Tatsuta K, Honkura N, Morooka N, Sakata M, Kurachi K, Sugimoto K, Kokame K, Takeuchi H, **Uranō T**, Suzuki Y. Microthrombi growth in ADAMTS13 deficiency exacerbates inflammatory bowel disease via mucosal and endothelial dysfunction. *Journal of Thrombosis and Haemostasis*. 2026;24(2):583-597. doi:10.1016/j.jtha.2025.09.027
33. Sunagawa Y, Funamoto M, Hamabe-Horiike T, Hieda K, Yabuki S, Tomino M, Ikai Y, Suzuki A, Ogawahara S, Yabuta A, **Sasaki H**, Ebe A, Naito S, Takai H, Shimizu K, Shimizu S, Kawase Y, Naruta R, Katanasaka Y, Asakawa T, Kan T, **Mori K**, Murakami A, Ogura M, Inagaki N, Hasegawa K, Morimoto T. Nobiletin Prevents Cardiac Hypertrophy via SIRT5-Mediated Downregulation of p300. *Hypertension*. 2026;83(1):130-145. doi:10.1161/HYPERTENSIONAHA.125.25083
34. Matsumoto T, Murase K, **Tabara Y**, Minami T, Sunadome H, Takahashi N, Hamada S, Wakamura T, Komenami N, Setoh K, Kawaguchi T, Nakayama T, Sato S, Hirai T, Matsuda F, Chin K. Novel predictive score for sleep disordered breathing in Asians: the Nagahama study. *Respiratory Investigation*. 2026;64(3):101394. doi:10.1016/j.resinv.2026.101394
35. Nakazawa S, Fukai K, Furuya Y, Sakai K, Hoshi K, **Kojimahara N**, Toyota A, Tatemichi M. Occupational risk of Parkinson' s disease and employment status following hospital admission: secondary analysis of ICOD-R case-control data in Japan. *BMJ Open*. 2025;15(12):e107012. doi:10.1136/bmjopen-2025-107012
36. Xiang R, Muraoka Y, Kogo T, Mori Y, Miyake M, Hidaka Y, Morita S, **Tabara Y**, Matsuda F, Tsujikawa A. OCT-Based Retinal Vasculature Analysis: Age, Sex, and Body Mass Index Associations in the Nagahama Study, a Large Japanese Cohort. *Ophthalmology Science*. 2025;5(4):100740. doi:10.1016/j.xops.2025.100740
37. Matsushita R, Tanaka-Mizuno S, Nakahata M, Yoshida S, **Takeuchi M**, Kawakami C, Kawakami K, Ito S. Peri-conception maternal nutrition and its association with offspring sex: a prospective cohort study using the Japan Environment and Children's Study data. *J Dev Orig Health Dis*. 2025;16:e38. doi:10.1017/S2040174425100251
38. Kanamori S, Imamura K, Inagawa Y, Yamauchi T, Ikeda H, Okuyama T, Muto G, Kato R, Iida M, Asaoka H, Inoue A, Watanabe K, Tsuno K, Sasaki N, Kobayashi Y, Sakuraya A, Komase Y, Otsuka Y, Iwanaga M, Inoue R, Kuribayashi K, Hino A, Shimazu A, Tsutsumi A, Kawakami N, Tani N, Eguchi H, **Kojimahara N**, Ebara T. Physical activity interventions delivered through digital health technology for improving workers' mental health symptoms: a systematic review and meta-analysis. *Journal of Occupational Health*. 2025;67(1):uiaf035. doi:10.1093/joccuh/uiaf035
39. Smit RAJ, Wade KH, Hui Q, Arias JD, Yin X, Christiansen MR, Yengo L, Preuss MH, Nakabuye M, Rocheleau G, Graham SE, Buchanan VL, Chittoor G, Graff M, Guindo-Martínez M, Lu Y, Marouli E, Sakaue S, Spracklen CN, Vedantam S, Wilson EP, Chen SH, Ferreira T, Ji Y, Karaderi T, Läll K, Machado M, Malden DE, Medina-Gomez C, Moore A, Rieger S, Akiyama M, Allison MA, Alvarez M, Andersen MK, Appadurai V, Arbeeva L, Bartell E, Bhaskar S, Bielak LF, Bis JC, Bollepalli S, Bork-Jensen J, Bradfield JP, Bradford Y, Brandl C, Braund PS, Brody JA, Broeckel U, Burgdorf KS, Cade BE, Cai Q, Camarda S, Campbell A, Cañadas-Garre M, Chai JF, Chesi A, Choi SH, Christofidou P, Couture C, Cuellar-Partida G, Danning R, Degenhardt F, Delgado GE, Delitala A, Demirkan A, Deng X, Dietl A, Dimitriou M, Dimitrov L, Dorajoo R, Eichmann F, Eliassen AU, Engmann JE, Erdos MR, Fairhurst-Hunter Z, Farmaki AE, Faul JD, Fernandez-Lopez JC, Forer L, Frank M, Freitag-Wolf S, Fritsche LG, Fuchsberger C, Galesloot TE, Gao Y, Geller F, Giannakopoulou O, Giulianini F, Gjesing AP, Goel A, Gordon SD, Gorski M, Grove J, Guo X, Gustafsson S, Haessler J, Hansen TF, Havulinna AS, Haworth SJ, Heard-Costa N, Hemerich D, Highland HM, Hindy G, Ho YL, Hofer E, Holliday E, Horn K, Hornsby WE, Hottenga JJ, Huang H, Huang J, Huerta-Chagoya A, Huo S, Hwang MY, Hwu CM, Iha H, Ikeda DD, Isono M, Jackson AU, Jansen IE, Jiang Y, Johansson I, Jonsson A, Jorgensen T, Kalafati IP, Kanai M, Kanoni S, Kärhus LL, Kasturiratne A, Katsuya T, Kawaguchi T, Kember RL, Kentistou KA, Kim D, Kim HN, Kim YJ, Kleber ME, Knol MJ, Kurbasic A, Lauzon M, Le P, Lea R, Lee JY, Lee WJ, Leonard HL, Li H, Li SA, Li X, Li X, Liang J, Lin H, Lin K, Liu J, Liu X, Lo KS, Long J, Lores-Motta L, Luan J, Lysenko V, Lytikäinen LP, Mahajan A, Malik MZ, Mamakou V, Mangino M, Manichaikul A, Marten J, Mattheisen M, McDaid AF, Mei Q, Meiselbach H, Melendez TL, Milaneschi Y, Miller JE, Millwood IY, Mishra PP, Mitchell RE, Mollhauve LT, Mononen N, Mucha S, Munz M, Mykkanen J, Nakatochi M, Nardone GG, Nelson CP, Nethander M, Nho CW, Nielsen AA, Nolte IM, Nongmaithem SS, Noordam R, Ntalla I, Nutile T, Pandit A, Pauper M, Petersen ERB, Petersen LV, Piluso F, Polasek O, Poveda A, Pyarajan S, Raffield LM, Rakugi H, Ramirez J, Rasheed A, Raven D, Rayner NW, Riveros C, Rohde R, Ruggiero D, Ruotsalainen SE, Ryan KA, Sabater-Lleal M, Santin A, Saxena R, Scholz M, Shen B, Shi J, Shin JH, Sidore C, Sidorenko J, Sim X, Sliker RC, Smith AV, Smith JA, Smyth LJ, Southam L, Steinthorsdottir V, Sun L, Takeuchi F, Taylor KD, Tayo BO, Tcheandjieu C, Terzikhan N, Tesolin P, Teumer A, Theusch E, Thompson DJ, Thorleifsson G, Timmers PRHJ, Trompet S, Turman C, Vaccargiu S, Van Der Laan SW, Van Der Most PJ, Van Klinken JB, Van Setten J, Verma SS, Verweij N, Veturi Y, Wang CA, Wang C, Wang JS, Wang L, Wang YX, Wang Z, Warren HR, Bin Wei W, Wen W, Wheeler WA, Wickremasinghe AR, Wielscher M, Winsvold BS, Wong A, Wuttke M, Xia R, Yamamoto K, Yang J, Yao J, Young H, Youssi NA, Yu L, Zeng L, Zhang W, Zhang X, Zhao JH, Zhao W, Zhou W, Zimmermann ME, Zoledziwska M, 'T Hart LM, Adair LS, Adams HHH, Aguilar-Salinas CA, Al-Mulla F, Arnett DK, Asselbergs FW, Åsvold BO, Attia J, Banas B, Bandinelli S, Beilín LJ, Bennett DA, Bergler T, Bharadwaj D, Biino G, Boerwinkle E, Böger CA, Borja JB, Bouchard C, Bowden DW, Brandslund I, Brumpton B, Buring JE, Caulfield MJ, Chambers JC, Chandak GR, Chanock SJ, Chaturvedi N, Ida Chen YD, Chen Z, Cheng CY, Cho YS, Christensen K, Christophersen IE, Ciullo M, Cole JW, Collins FS, Concas MP, Cooper RS, Cruz M, Cucca F, Cutler MJ, Damrauer SM, Dantoft TM, De Borst GJ, De Geus EJC, De Groot LCPGM, De Jager PL, De Kleijn DPV, De Silva HJ, Dedoussis GV, Den Hollander AI, Du S, Easton DF, Eckardt KU, Elders PJM, Eliassen AH, Ellinor PT, Elmståhl S, Erdmann J, Evans MK, Fatkin D, Feenstra B, Feitosa MF, Ferrucci L, Florez JC, Ford I, Fornage M, Franke A, Franks PW, Freedman BI, Gieger C, Grotto G, Golightly YM, Gonzalez-Villalpando C, Gordon-Larsen P, Grallert H, Grant SFA, Grarup N, Griffiths L, Gudnason V, Haiman C, Hakonarson H, Hansen T, Hartman CA, Hattersley AT, Hayward C, Heid IM, Heng CK, Hengstenberg C, Herzig KH, Hewitt AW, Hishigaki H, Hougaard DM, Hoynig CB, Huang PL, Huang W, Huang WY, Huffman JE, Hunt SC, Hutri N, Hveem K, Hyppönen E, Iacono WG, Ichihara S, Ikram MA, Isasi CR, Jarvelin MR, Jin ZB, Jöckel KH, Jonas JB, Joshi PK, Jousilahti P, Jukema JW, Kahönen M, Kamatani Y, Kang KD, Kaprio J, Kardia SLR, Karpe F, Kato N, Kavousi M, Kee F, Kessler T, Khera AV, Khor CC, Kiemeny LALM, Kim BJ, Kim EK, Kim HL, Kirchhof P, Kivimäki M, Koh WP, Koistinen HA, Kokkinos A, Koener JS, Kooperberg C, Kovacs P, Kraaijeveld A, Kraft P, Krauss RM, Kumari M, Kutalik Z, Laakso M, Lange LA, Langenberg C, Launer LJ, Lee H, Lee NR, Lehtimäki T, Lemaitre RN, Li H, Li L, Lieb W, Lin X,
40. Miyasaka Y, **Sato Y**, Harada H, Nakamura K, Ohno T, **Yamamoto S**. Practice disparities in palliative radiation therapy for bone metastases: insights from the Shizuoka Kokuho database study. *Jpn J Radiol*. 2026;44(6):1071-1078. doi:10.1007/s11604-025-01938-8
41. Suga T, Yoshida T, Yokoyama A, Hanami Y, Ashina K, Nakamura N, Kawakami K, Takita J, **Takeuchi M**. Prolonged Febrile Seizure and Long-Term Neurological Sequelae in Otherwise Healthy Children. *Annals of Neurology*. 2025;97(4):688-693. doi:10.1002/ana.27192
42. Ou H, Kawaguchi S, Brial F, Sonomura K, Kawaguchi T, Gravel AE, Das SK, Auld D, **Tabara Y**, Jean-Claude BJ, Lathrop M, Matsuda F, Gauguier D. Quantitative 1H-NMR spectroscopy identifies metabolites and lipoprotein subclasses associated with intermediate phenotypes of chronic diseases in the Japanese Nagahama Study. *Sci Rep*. 2025;15(1):31337. doi:10.1038/s41598-025-12305-y
43. Ichinose Y, Urayama KY, Okamura M, Sugiura N, Suto M, **Sasaki H**. Takehara K. Randomized controlled trial investigating the effect of a childbirth and parenting booklet intervention on paternal postpartum depression risk. *BMC Pregnancy Childbirth*. 2025;25(1):1095. doi:10.1186/s12884-025-08200-z
44. **Kou Sueoka**, Yuki Mizuguchi, **Yasue Horiuchi**, **Takeshi Usui**, Osamu Mochizuki, Hidehiko Miyake, Yuichi Goto. Regional Barriers to Advancing Genetic Medicine in Japan: Insights from a Shizuoka Prefecture Survey. *JMA J*. 2026;9(2):525-534. doi:10.31662/jmaj.2025-0240
45. Takeuchi F, Yamamoto M, Nakatochi M, Takano K, Okazaki A, Emoto S, **Tabara Y**, Katsuya T, Yamamoto K, Isono M, **Mori K**, Matsubara T, Ichihara S, Yokota M, Hara H, Hiroi Y, Kato N. Simultaneous Assessment of Genetic and Epigenetic Contributions to the Plasma Lipid Levels with Respect to Cardiovascular Risk. *JAT*. 2026;33(6):717-758. doi:10.5551/jat.66000
46. Takakado M, **Tabara Y**, Inoue S, Hadate T, Kawamura R, Maruyama K, Saito I, Ohashi J, Osawa H, Takata Y. Simultaneous assessment of one-hour plasma glucose levels and age as a potential predictor of glucose intolerance development in individuals with normal glucose tolerance. *Diabetes Research and Clinical Practice*. 2026;232:113079. doi:10.1016/j.diabres.2025.113079
47. Akada M, Nakanishi Y, Ideyama M, Mori Y, Morino K, Nakano E, Numa S, Nagasaki T, Matsumoto T, Sunadome H, Hamada S, Takahashi N, Hirai T, Komenami N, Chin K, Murase K, Sato S, **Tabara Y**, Matsuda F, Tamura H, Miyake M, Tsujikawa A, Hata M. Sleep Disturbance as a Risk Factor for Retinal Neurodegeneration and Subsequent Glaucoma. *American Journal of Ophthalmology*. 2025;280:193-202. doi:10.1016/j.ajo.2025.08.019
48. Sunagawa Y, Iwashimizu S, Ono M, Mochizuki S, Iwashita K, Sato R, Shimizu S, Funamoto M, Shimizu K, Hamabe-Horiike T, Katanasaka Y, Murakami A, Asakawa T, Inai M, Kan T, Komiyaama M, Hawke P, **Mori K**, Arakawa Y, Hasegawa K, Sakamoto K, Kurokawa J, Morimoto T. The citrus flavonoid nobiletin prevents the development of doxorubicin-induced heart failure by inhibiting apoptosis. *Journal of Pharmacological Sciences*. 2025;158(2):84-94. doi:10.1016/j.jpshs.2025.03.011
49. Kogo M, Sato S, Muro S, Matsumoto H, Murase K, Sunadome H, Hamada S, Nagasaki T, Takahashi N, Matsumoto T, Takahashi Y, Kawaguchi T, Setoh K, **Tabara Y**, Matsuda F, Nakayama T, Chin K, Hirai T. The role of visceral fat mass in preserved ratio impaired spirometry (PRISm): The Nagahama study. *Respiratory Medicine*.

2025;249:108446. doi:10.1016/j.rmed.2025.108446

50. **Hashizume H, Matsuura A, Miyachi Y.** The Shizuoka Study of a Population-Based Retrospective Cohort for the Evaluation of Risk of Pressure Injury in the Elderly. *Advances in Wound Care*. 2026;15(5):289-298. doi:10.1089/wound.2024.0256

51. Holden A, Haruguchi H, Suemitsu K, Isogai N, Hull J, Wiechmann BN, Wang H, Wall B, Lookstein R, IN.PACT AV Access Investigators, Kirksey L, Parodi F, Hardy D, Lyden S, Misra S, Bjarnason H, Stockland A, Neidert N, Bendel E, Reisenauer C, Neisen M, Knavel E, Santos A, Laurich C, Kelly P, Abul-Khoudoud O, Hou A, Lewis P, Friedman A, Dudkiewicz M, Dreifuss R, Rundback J, Herman K, Khudari HE, Aal AKA, Ertel N, Oser R, Gunn A, Sharafuddin M, Laroia S, Sun S, O' Shea B, Miller B, Kresowik T, Sharp W, Wang S, Madassery S, Dexter D, Steerman S, Rathore A, DeMasi R, Stokes G, McEnroe S, Joels C, Fugate M, Greer M, Sprouse LR, Horn J, Hussain S, Karagiorgos N, Ash J, Bagla S, Piechowiak R, London M, Ross J, Ewart J, Hakmei J, Sheta M, Hoggard J, Gupta K, Patel S, Mann W, Atray N, Kashyap R, Ramani K, Cooper R, Pervez A, Waheed U, Mawla N, Beathard S, Kafie F, McDaniel H, Matsuoka Y, Ota N, Oka K, Kawanishi S, Ogino H, Miyake K, Kawachi J, Murata T, Kume N, Igarashi Y, Sunou Y, Hidaka S, Ishioka K, Fujihara M, Yokoi Y, Higashimori A, Morioka N, Shiotani S, Fukuda K, Tsukizawa T, Kuwabara K, Matsuo Y, Tanabe Y, Murakami M, Mori N, **Mori K**, Tanaka S, Matsuo K, Okawa T, Okamura S, Soma Y, Yamamoto Y, Kimura S, Ito Y, **Sugawara A**, Ito K, Yamada R, Matsuo Y, Hagiwara K, Iwadoh K, Nakajima I, Fuchinoue S, Hirotani S, Kai K, Ogawa Y, Miki K, Hachisuka T, Morita S, Kondo A, Iwadoh K, Ogawa T, Hasegawa H, Hida T, Shimizu T, Abe N, Sano T, Yasuda K, Kiba T, Okada Y, Ogawa K, Hara H, Hirose K, Kawai Y, Buckley B, Merrilees S, Semple D, Hill A, Wickremesekera JK, Evans R, Taumoepeau L, Narayanan A, Baimatova I. Vessel and balloon sizing in the IN.PACT AV access trial: post-hoc analysis of procedural characteristics and outcomes. *CVIR Endovasc*. 2026;9(1):17. doi:10.1186/s42155-026-00650-6

52. 豊田章宏, 立道昌幸, **小島原典子**, 星佳芳, 深井航太. COVID-19 入院患者の臨床的特徴と有職者における検討. *日本職業災害医学会会誌*. 2025;73(5):120-128.

53. 早川雅代, 渡部乙女, 志賀久美子, 八巻知香子, **高山智子**. 乳がんの診療ガイドライン等は相談者の疑問に対応可能か. *日本ヘルスコミュニケーション学会雑誌*. 2025;16(2):33-40.

総説（筆頭著者に限る）

1. **小島原典子**. RLS 診療ガイドライン：エビデンスの少ない領域におけるガイドラインの質評価と公開後の普及活動. *日本神経治療学会*. Preprint posted online 2025:4. doi:10.15082/jsnt.42.4_662

2. **藤本修平**. ヘルスケア領域における産学連携・オープンイノベーション. 『地球・宇宙・未来』編集委員会. Preprint posted online 2025:1. doi:10.60420/globeuniversefuture.2.1_115

3. **橋爪秀夫**. アレルギー患者に対する問答話法 薬疹の診断はどのようにしますか？(株)メディカルレビュー社.

4. **堀内泰江**. ゲノム医療と遺伝カウンセリング. (一社) 日本社会精神医学会.

5. **橋爪秀夫**. 【「基礎」から「知りたい情報」まで 新・薬物アレルギーの教科書】(第3章) 薬疹 総論. (株)じほう. Preprint posted online July 1, 2025.

6. **堀内泰江**. 石黒浩毅, 糸川昌成. 実践に学ぶ遺伝カウンセリングのコツ 精神疾患領域の遺伝カウンセリング. (株)メディカルドゥ.

7. **橋爪秀夫**. 話題 好酸球 - 最近の話題. (有)科学評論社. Preprint posted online April 2025:4. doi:10.69337/D202504-074-11

国際学会発表（代表発表者に限る）

【一般口演】

1. **Hashizume H, Matsuura A, Miyachi Y.** Anaphylaxis Across the Lifespan in Japan: Population-Based Evidence of a Bimodal Pattern and Tick-Associated Risk; Shizuoka Study. Presented at: 54th Annual ESDR Meeting; September 11, 2025.

2. **Tabara Y**, Shoji-Asahina A, **Sato Y**. Different associations of low LDL cholesterol with cardiovascular events, incidence of functional disability, and all-cause mortality. Presented at: 21st EuGMS Congress; September 25, 2025.

3. **Kojimahara N**, Vaupotič N, Martin L, Goszczyńska E, Mitsushita K, Nara Y, Guxens M, White MP, Böhmert C, Grellie J. Risk perception of 5G exposure among pregnant women in Japan: a cross-sectional panel survey. Presented at: SRA Annual Meeting 2025; December 9, 2025.

【シンポジウム】

1. **Hatta T**. Cultural Adoption and Indigenization of Mixed Methods Research in East Asia: JAPAN. Presented at: MMIRA Asia Regional Conference 2025; November 9, 2025.

【招待講演】

1. **Kojimahara N**, Sumi Y, Tsuboi Y, Oka Y, Hirata K, Miyamoto T, Miyamoto M, Okura M, Oguri T, Kato K, Koike S, Kondo H, Suzuki K, Tanioka K, Taniguchi M, Tanno S, Nomura T, Tomimoto H. Japanese RLS guideline update: evidence review and GRADE-based recommendations. Presented at: Asian Society of Sleep Medicine; September 6, 2025.

2. **Furukawa S**. Approaches to mid-level auditory processing. Presented at: 6th Joint Meeting of Acoustical Society of America and Acoustical Society of Japan (Honolulu 2025); December 1, 2025.

【講演・セミナー】

1. **Urano T**. Master Class Session: Tests of fibrinolysis (pros and cons). Presented at: XXXIII Congress of the International Society of Thrombosis and Haemostasis; June 24, 2025.

国内学会発表（代表発表者に限る）

【招待講演】

1. **浦野哲盟**. 岡本賞受賞講演：Coagulation-dependent initiation and amplification of Fibrinolysis: Fascinating machinery induced by protein-protein interactions. Presented at: 第 47 回日本血栓止血学会; June 27, 2025.

2. **古川茂人**. 音の時間情報の聴覚処理. Presented at: 情報伝送と信号処理ワークショップ; November 5, 2025.

3. **藤本修平**. 公衆衛生領域のキャリアに必要なスキルとは？. Presented at: パブリックヘルス専門職キャリアフォーラム; June 21, 2025.

【シンポジウム】

1. **佐藤洋子**. シンポジウム「データに基づく歯科口腔保健政策をすすめるために：研究と行政的視点から」静岡県国保データベース（SKDB）を活用した地域の歯科口腔保健課題の可視化と政策展望. Presented at: 第 84 回日本公衆衛生学会総会; October 29, 2025.

2. **佐藤洋子**. シンポジウム・静岡発! 食と生活習慣チェック：健康寿命延伸のためのモニタリング調査の構築と活用「静岡県民限定! 食と生活習慣チェック」の構築と活用. Presented at: 第 84 回日本公衆衛生学会総会; October 29, 2025.

3. **藤本修平**. 徹底議論! 医療機器・DTx 業界の IPO 戦略に必要な思考のリアル. Presented at: IVS2025; July 2, 2025.

4. **藤本修平**. 猪川崇輝, 川田裕美. ヘルステック領域のオープンイノベーション 2.0 ～オープンイノベーションの幻想と真の共創を問う～. Presented at: ヘルステックサミット 2025; December 8, 2025.

5. **佐々木八十子**. 豊島勝昭, 森臨太郎, 西田俊彦, 楠田聡. INTACT 前後の NICU チームの課題や活動の変化. Presented at: 第 61 回日本周産期・新生児医学会学会術集会; July 15, 2025.

6. **田原康玄**. ナトカリ比を測定する上で留意すべきポイント. Presented at: 第 61 回日本循環器病予防学会学会術集会; May 24, 2025.

7. **田原康玄**. 静岡多目的コホート研究事業の取り組みと将来展望. Presented at: 第 61 回日本循環器病予防学会学会術集会; May 24, 2025.

8. **橋爪秀夫**. 多形紅斑型薬疹と SJS/TEN の診断と治療をアップデートする. Presented at: 第 55 回日本皮膚免疫アレルギー学会; November 28, 2025.

9. **橋爪秀夫**. 薬疹データベース構築の進捗状況と疫学的知見. Presented at: 第 55 回日本皮膚免疫アレルギー学会; November 28, 2025.

10. **田原康玄**. 朝・晩・夜間の家庭血圧に対する室温の影響～しずおか研究～. Presented at: 第 47 回日本高血圧学会総会; October 17, 2025.

11. **佐藤清香**. 日本の発酵食品と人々の健康との関係. Presented at: 生き物文化誌学会第 22 回学会術大会; June 28, 2025.

【一般口演】

1. **橋爪秀夫, 松浦杏美, 宮地良樹**. ライフステージで異なるアナフィラキシーの発症特性 静岡スタディによる疫学解析. Presented at: 第 55 回日本皮膚免疫アレルギー学会; November 29, 2025.

2. **田原康玄**. ながはまスタディグループ. 起立性血圧変化と仮面・白衣効果との関連. Presented at: 第 47 回日本高血圧学会総会; October 2025.

3. **田原康玄**. 後期高齢者質問票に基づく要介護認定リスクの評価. Presented at: 第 71 回東海公衆衛生学会学会術大会; July 5, 2025.

4. **橋爪秀夫, 松浦杏美, 宮地良樹**. 高脂血症薬投与と褥瘡発生リスクの関連：静岡県国保データベースを用いた後ろ向きコホート研究. Presented at: 第 120 回日本皮膚科学会群馬地方会; August 3, 2025.

5. **田原康玄**. 朝比奈彩, **佐藤洋子**. 高齢者における LDL コレステロールと冠動脈疾患および総死亡との関連. Presented at: 第 12 回日本サルコペニア・フレイル学会大会; November 2025.

6. **松浦杏美, 橋爪秀夫, 宮地良樹**. 高齢者の入院褥瘡発症リスク因子：静岡県国保クレイムデータを用いた後方視的コホート研究による疫学解析. Presented at: 第 27 回日本褥瘡学会学会術集会; August 29, 2025.

7. **松浦杏美, 橋爪秀夫, 宮地良樹**. 静岡県国保ビッグデータが明らかにする褥瘡対策の現状と課題：9 年間の分析結果から. Presented at: 第 34 回日本創傷オストミー失禁管理学会学会術集会; June 21, 2025.

8. **佐藤清香, 田原康玄**. 袋井市保健予防課, 袋井市健康長寿課. 袋井市における減塩調味料の配布による降圧効果の検証のための介入研究の計画. Presented at: 第 62 回静岡県公衆衛生研究会; February 12, 2026.

9. **佐藤清香**. 河崙唯衣, 赤松利恵, 谷内ななみ. 地域在住高齢者における日本語版フードリテラシー尺度の信頼性と妥当性の検討. Presented at: 第 72 回日本栄養改善学会学会術総会; September 2025.

10. **佐藤清香**. 河崙唯衣, 赤松利恵, 谷内ななみ, 久称田珠暉, 土井音楽, 石川葉菜. 地域在住高齢者を対象としたフレイル予防運動教室に「ちょい足し」した栄養教育プログラムの実現可能性. Presented at: 第 33 回日本健康教育学会学会術大会; July 2025.

11. **田原康玄**. 電力使用量と室温、家庭血圧との関連～しずおか研究～. Presented at: 第 37 回血圧管理研究会; November 29, 2025.

12. **橋爪秀夫**. 石川優人, 西田舞. 当科で経験した遺伝性血管浮腫（HAE）疑い例. Presented at: 第 140 回日本皮膚科学会静岡地方会; October 4, 2025.

13. **竹内正人**. 川上浩二. 特定健診の生活習慣病発症予防効果の検証: SKDB 研究. Presented at: 第 84 回日本公衆衛生学会総会; October 29, 2025.

14. **田原康玄**. 朝比奈彩, **佐藤洋子**. 肥満者と非肥満者におけるメタボリックシンドロームと循環器疾患発症との関連. Presented at: 第 61 回日本循環器病予防学会学会術集会; May 24, 2025.

15. **田原康玄**. 朝比奈彩, **佐藤洋子**. 赤坂憲, 杉本研. 要介護認定に対する後期高齢者質問票の妥当性. Presented at: 第 67 回日本老年医学会学会術集会; June 27, 2025.

【講演・セミナー】

1. **田原康玄**. Evidence-Based Lifestyle-Related Disease Prevention. Presented at: 国際協力機構課題別研修「生活習慣病予防対策」; November 25, 2025.

2. **藤本修平**. 新・医療に向けた新興企業は今何を考えるか？～NEXT ヘルステック領域～. Presented at: IVS2025; July 3, 2025.

3. **藤本修平**. 中村多伽, 近藤絵水, 永田暁彦, 長谷川和宏, 松井孝憲. IMPACT FLOW KYOTO 2025-2026 ファイナルピッチ公開審査. Presented at: IMPACT FLOW KYOTO 2025-2026; January 22, 2026.

4. **藤本修平**. 前川寛洋, 加藤浩晃, 佐竹晃太. SaMD スタートアップの Hard things の軌跡と未来. Presented at: TECHNIUM Global Conference 2025; May 8, 2025.

5. **藤本修平**. スタートアップのための予実管理－入門－. Presented at: 株式会社 taliki 投資先研修会; February 4, 2026.

6. **藤本修平**. ヘルスケアビジネス領域で“理学療法士”は活躍できるか？. Presented at: 日本理学療法士連盟研修企画; July 16, 2025.

7. **藤本修平**. 医療・ヘルスケア・介護がより良くなるためにミナでできること ～良いサービスは誰・何から起きるか～. Presented at: 静岡理工科大学・静岡社会健康大学院大学 学術交流協定提携記念シンポジウム; December 14, 2025.

8. **藤本修平**. 藤本宏樹, 堂田丈明. 医療ヘルスケア領域におけるオープンイノベーションの創出. Presented at: 第 1 回日本ヘルスケアイノベーション学会; March 15, 2026.

9. **藤本修平**. 中村多伽, 矢藤慶悟, 前川寛洋. 産学官連携・オープンイノベーションの成功要因と責任の所在 ～何を承継し、何を承継しないのか～. Presented at: SWING2026; February 28, 2026.

10. **藤本修平**. 加藤浩晃, 程涛. 新・医療&新・ヘルスケアに向けた産学官連携のあり方. Presented at: SWING2026; February 28, 2026.

11. **佐藤洋子**. 持続可能な UHC と公平な制度設計を考える上で疫学者が知っておきたいリアルワールドデータ活用法「静岡県国保データベース（SKDB）の構築と自治体での活用」. Presented at: 日本疫学会プレセミナー 2026; January 28, 2026.

12. **藤本修平**. 病気に向かって共に歩める医療者の選び方 ～患者さんと医療者の新しいコミュニケーションの形～. Presented at: 静岡社会健康医学大学院大学公開講座; March 7, 2026.

13. **菅原照**. 生活習慣病と健康長寿. Presented at: みのり大学; January 27, 2026.

SHIZUOKA GRADUATE UNIVERSITY OF PUBLIC HEALTH ANNUAL REPORT 2025

発行：静岡社会健康医学大学院大学 教務課（2026年6月）

〒420-0881 静岡市葵区北安東4-27-2

電話番号 054-295-5401

kyomu@s-ph.ac.jp

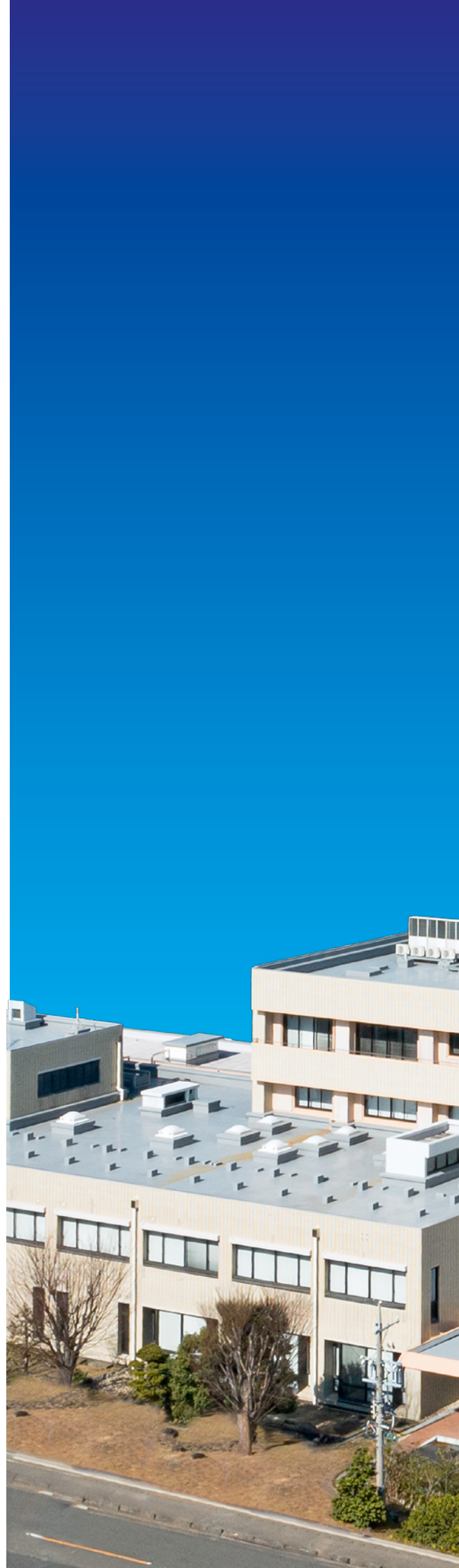
<https://s-ph.ac.jp>



本学アニュアルレポートはWebサイトでもご覧になれます。
<https://s-ph.ac.jp/disclosure/corporate/plan>

表紙：本学の外観

2021年2月に教育棟及び附属棟が、翌2022年2月に研究棟が竣工して間もないことから、近代的で清潔感あふれる施設・設備が好評です。



静岡社会健康医学大学院大学アニュアルレポート2025を御覧いただきありがとうございます。
今後の参考のため、アンケートに御協力をお願いいたします。



<https://forms.gle/7a5Ed1UhMBGu9fn29>

アニュアルレポート2025「2025年度 論文及び学会等発表一覧」正誤表

原著論文（査読あり）

【筆頭著者・責任著者・最終著者】

No.	誤	正
1	<u>Yamasaki K</u> , Hayashi N, Hayashi H, Fukuya Y, <u>Horiuchi Y</u> , Kobayashi M, Nobeyama Y, Omatsu J, Tsunoda K, <u>Miyachi Y</u> . An Attempt to Establish the Consensus Regarding the Diagnosis, Classification, and Treatment of Rosacea in Japan Using a Modified Delphi Method: The Japan Rosacea Consensus. The Journal of Dermatology. 2026;53(4):605-618. doi:10.1111/1346-8138.70213	Yamasaki K, Hayashi N, Hayashi H, Fukuya Y, Horiuchi Y, Kobayashi M, Nobeyama Y, Omatsu J, Tsunoda K, <u>Miyachi Y</u> . An Attempt to Establish the Consensus Regarding the Diagnosis, Classification, and Treatment of Rosacea in Japan Using a Modified Delphi Method: The Japan Rosacea Consensus. The Journal of Dermatology. 2026;53(4):605-618. doi:10.1111/1346-8138.70213
3	<u>Tabara Y</u> , Shoji-Asahina A, <u>Sato Y</u> . Association of Body Weight Changes Over 1 Year With the Incidence of Functional Disability and All-Cause Mortality in Older Adults: The Shizuoka Kokuho Database Study. Journal of the American Medical Directors Association. 2025;26(12):105904. doi:10.1016/j.jamda.2025.105904	<u>Tabara Y</u> , <u>Shoji-Asahina A</u> , <u>Sato Y</u> . Association of Body Weight Changes Over 1 Year With the Incidence of Functional Disability and All-Cause Mortality in Older Adults: The Shizuoka Kokuho Database Study. Journal of the American Medical Directors Association. 2025;26(12):105904. doi:10.1016/j.jamda.2025.105904
5	<u>Kojimahara N</u> , Kiyohara K, <u>Sato Y</u> , Wake K, Taki M, Castano-Vinyals G, Yamaguchi N, The Study Group of MOBI-Kids Japan. Brain Tumor and Mobile Phone Risk Among Young People: Analysis of Japanese People Using the MOBI-Kids International Case-Control Study. Bioelectromagnetics. 2025;46(8):e70032. doi:10.1002/bem.70032	<u>Kojimahara N</u> , Kiyohara K, Sato Y, Wake K, Taki M, Castano-Vinyals G, Yamaguchi N, The Study Group of MOBI-Kids Japan. Brain Tumor and Mobile Phone Risk Among Young People: Analysis of Japanese People Using the MOBI-Kids International Case-Control Study. Bioelectromagnetics. 2025;46(8):e70032. doi:10.1002/bem.70032
6	Ogawa A, Shoji-Asahina A, Kawaguchi T, Nakayama T, Matsuda F, <u>Tabara Y</u> . Chlamydia pneumoniae Seropositivity is Associated with Cardiovascular Events in the	（掲載時期が2026年度であるため削除）

No.	誤	正
	General Population: The Nagahama Study. JAT. 2026;33(4):428-440. doi:10.5551/jat.65868	
7	Satoh T, Nakatani E, Ariyasu H, Saito C, Oshiro Y, Ohata E, Itoh H, Hayashi K, Usui T . Development and validation of a type 2 diabetes mellitus prediction tool using a large Japanese regional insurance claims database. Sci Rep. 2025;15(1):37968. doi:10.1038/s41598-025-21831-8	Satoh T, Nakatani E , Ariyasu H, Saito C, Oshiro Y, Ohata E, Itoh H, Hayashi K, Usui T . Development and validation of a type 2 diabetes mellitus prediction tool using a large Japanese regional insurance claims database. Sci Rep. 2025;15(1):37968. doi:10.1038/s41598-025-21831-8
10	Higuchi D, Nagao-Sato S, Takeuchi M , Takahashi Y, Shinohara T. Effects of sarcopenia, low physical activity, and malnutrition on the progression of frailty in community-dwelling older adults attending community activity groups in Japan: a prospective cohort study protocol. Preventive Medicine Research. Preprint posted online January 1, 2026:4. doi:10.60219/pmr.3.4_139	Higuchi D, Nagao-Sato S , Takeuchi M, Takahashi Y, Shinohara T. Effects of sarcopenia, low physical activity, and malnutrition on the progression of frailty in community-dwelling older adults attending community activity groups in Japan: a prospective cohort study protocol. Preventive Medicine Research. Preprint posted online January 1, 2026:4. doi:10.60219/pmr.3.4_139 (分類も【その他】に変更)
11	Kishida S, Nakatani E, Usui T , Fujimoto S , Yamamoto S, Miyachi Y . Epidemiological insights and healthcare challenges of tuberous sclerosis complex in Shizuoka Prefecture: a retrospective cohort study. Orphanet J Rare Dis. 2025;20(1):245. doi:10.1186/s13023-025-03799-w	Kishida S, Nakatani E , Usui T , Fujimoto S , Yamamoto S , Miyachi Y . Epidemiological insights and healthcare challenges of tuberous sclerosis complex in Shizuoka Prefecture: a retrospective cohort study. Orphanet J Rare Dis. 2025;20(1):245. doi:10.1186/s13023-025-03799-w
12	Satoh T, Tanaka Y , Nakatani E, Ariyasu H, Kawaguchi S, Ohno K, Itoh H, Hayashi K, Usui T . Identifying risk factors of biliary tract cancers using a large Japanese regional insurance claims database. Sci Rep. 2025;15(1):24347. doi:10.1038/s41598-025-09790-6	Satoh T, Tanaka Y , Nakatani E , Ariyasu H, Kawaguchi S, Ohno K, Itoh H, Hayashi K, Usui T . Identifying risk factors of biliary tract cancers using a large Japanese regional insurance claims database. Sci Rep. 2025;15(1):24347. doi:10.1038/s41598-025-09790-6
16	Tabara Y , Shoji-Asahina A, Sato Y , Kawaguchi T, Nakayama T, Matsuda F. Prognostic Significance of the Estimated Small Dense Low-Density Lipoprotein Cholesterol Levels in Predicting the Incidence of Coronary Artery Disease: The Nagahama Study and Shizuoka Kokuho Database Study. JAT. Published online 2026:65926. doi:10.5551/jat.65926	Tabara Y , Shoji-Asahina A , Sato Y , Kawaguchi T, Nakayama T, Matsuda F. Prognostic Significance of the Estimated Small Dense Low-Density Lipoprotein Cholesterol Levels in Predicting the Incidence of Coronary Artery Disease: The Nagahama Study and Shizuoka Kokuho Database Study. JAT. Published online 2026:65926. doi:10.5551/jat.65926
19	Nagao-Sato S, Kushida O, Kurita Y, Ozaki E, Kuriyama N , Kato M, Akamatsu R, Goda T, Tabara Y . Sex Differences in the Association Between Masticatory Function and Sarcopenia Components: The Shizuoka Study. Nutrients. 2025;17(6):968. doi:10.3390/nu17060968	(掲載時期が2024年度であるため削除)

(以下を追記)

Ueki C, Nakatani E, Sugawara A. Real-world outcomes and management trends in uncomplicated type B aortic dissection. *Interdisciplinary CardioVascular and Thoracic Surgery*. 2025;40(4):ivaf089. doi:10.1093/icvts/ivaf089

Shoji-Asahina A, Tabara Y. Renal hypouricemia is associated with a decreased glomerular filtration rate, but not with cardiovascular events or all-cause mortality: the Shizuoka Study. *Kidney Res Clin Pract*. 2025 Dec 12. doi: 10.23876/j.krcp.25.304.

【その他】

No.	誤	正
11	Shinohara T, Takahashi Y, Takeuchi M , Nagao-Sato S, Higuchi D. Associations between social capital, health status, and physical and social frailty among older adults: A cross-sectional analysis of the Gunma aging cohort. <i>Archives of Gerontology and Geriatrics Plus</i> . 2026;3(1):100255. doi:10.1016/j.aggp.2026.100255	Shinohara T, Takahashi Y, Takeuchi M, Nagao-Sato S , Higuchi D. Associations between social capital, health status, and physical and social frailty among older adults: A cross-sectional analysis of the Gunma aging cohort. <i>Archives of Gerontology and Geriatrics Plus</i> . 2026;3(1):100255. doi:10.1016/j.aggp.2026.100255
17	Yoshihara K, Seyama S, Hayashi N, Horiuchi Y , Ishida W, Yasuda T, Hou I, Shimada T, Murakami S, Kakuta M, Sugai J, Watanabe M, Ishii A, Nomoto M, Ichimiya H, Tanaka N, Takeo C, Kasugai K, Kobayashi M, Kimura U, Kohno M, Nakazaki E, Murase C, Ban Y, Fukano Y, Miyachi Y , Nakaminami H. Combination Effects of Clindamycin and Benzoyl Peroxide Against Cutibacterium acnes. <i>The Journal of Dermatology</i> . 2026;53(3):528-531. doi:10.1111/1346-8138.70170	Yoshihara K, Seyama S, Hayashi N, Horiuchi Y, Ishida W, Yasuda T, Hou I, Shimada T, Murakami S, Kakuta M, Sugai J, Watanabe M, Ishii A, Nomoto M, Ichimiya H, Tanaka N, Takeo C, Kasugai K, Kobayashi M, Kimura U, Kohno M, Nakazaki E, Murase C, Ban Y, Fukano Y, Miyachi Y , Nakaminami H. Combination Effects of Clindamycin and Benzoyl Peroxide Against Cutibacterium acnes. <i>The Journal of Dermatology</i> . 2026;53(3):528-531. doi:10.1111/1346-8138.70170
21	Shintani T, Nakatani E, Kaneda H, Hawke P, Obara H, Usui T . Editor's Choice – Comparison of Prognosis in Chronic Limb Threatening Ischaemia after Revascularisation versus Non-revascularisation Treatment: Analysis of Japanese Regional Insurance Claims. <i>European Journal of Vascular and Endovascular Surgery</i> . 2025;70(6):800-808. doi:10.1016/j.ejvs.2025.05.036	Shintani T, Nakatani E , Kaneda H, Hawke P, Obara H, Usui T . Editor's Choice – Comparison of Prognosis in Chronic Limb Threatening Ischaemia after Revascularisation versus Non-revascularisation Treatment: Analysis of Japanese Regional Insurance Claims. <i>European Journal of Vascular and Endovascular Surgery</i> . 2025;70(6):800-808. doi:10.1016/j.ejvs.2025.05.036
24	Hagiwara R, Nakatani E, Kaneda H, Okada H, Hashizume H, Kuriyama N, Sugawara A . Estimating Risks of Central Nervous System Disturbance Associated with Medications for Herpes Zoster: Findings from a Regional Population-Based Cohort Study Using the Shizuoka Kokuho Database. <i>Drugs - Real World Outcomes</i> . 2025;12(3):399-410. doi:10.1007/s40801-	Hagiwara R, Nakatani E , Kaneda H, Okada H, Hashizume H, Kuriyama N, Sugawara A . Estimating Risks of Central Nervous System Disturbance Associated with Medications for Herpes Zoster: Findings from a Regional Population-Based Cohort Study Using the Shizuoka Kokuho Database. <i>Drugs - Real World Outcomes</i> . 2025;12(3):399-410. doi:10.1007/s40801-

No.	誤	正
	025-00500-2	025-00500-2
31	Watanabe R, Nakatani E, Kaneda H, Funaki D, Sobukawa Y, Tanaka Y , Kuriyama N , Takeuchi M , Sugawara A . Machine learning-based high-benefit approach versus traditional high-risk approach in statin therapy: the Shizuoka Kokuho database study. Sci Rep. 2025;15(1):27627. doi:10.1038/s41598-025-11236-y	Watanabe R, Nakatani E , Kaneda H, Funaki D, Sobukawa Y, Tanaka Y , Kuriyama N , Takeuchi M , Sugawara A . Machine learning-based high-benefit approach versus traditional high-risk approach in statin therapy: the Shizuoka Kokuho database study. Sci Rep. 2025;15(1):27627. doi:10.1038/s41598-025-11236-y
33	Sunagawa Y, Funamoto M, Hamabe-Horiike T, Hieda K, Yabuki S, Tomino M, Ikai Y, Suzuki A, Ogawahara S, Yabuta A, Sasaki H , Ebe A, Naito S, Takai H, Shimizu K, Shimizu S, Kawase Y, Naruta R, Katanasaka Y, Asakawa T, Kan T, Mori K , Murakami A, Ogura M, Inagaki N, Hasegawa K, Morimoto T. Nobiletin Prevents Cardiac Hypertrophy via SIRT5-Mediated Downregulation of p300. Hypertension. 2026;83(1):130-145. doi:10.1161/HYPERTENSIONAHA.125.25083	Sunagawa Y, Funamoto M, Hamabe-Horiike T, Hieda K, Yabuki S, Tomino M, Ikai Y, Suzuki A, Ogawahara S, Yabuta A, Sasaki H, Ebe A, Naito S, Takai H, Shimizu K, Shimizu S, Kawase Y, Naruta R, Katanasaka Y, Asakawa T, Kan T, Mori K , Murakami A, Ogura M, Inagaki N, Hasegawa K, Morimoto T. Nobiletin Prevents Cardiac Hypertrophy via SIRT5-Mediated Downregulation of p300. Hypertension. 2026;83(1):130-145. doi:10.1161/HYPERTENSIONAHA.125.25083
50	Hashizume H, Matsuura A, Miyachi Y. The Shizuoka Study of a Population-Based Retrospective Cohort for the Evaluation of Risk of Pressure Injury in the Elderly. Advances in Wound Care. 2026;15(5):289-298. doi:10.1089/wound.2024.0256	(掲載時期が2024年度であるため削除)

(以下を追記)

Kawasaki Y, **Nagao-Sato S**, Shimpo M, Akamatsu R. Are weight control and food waste a trade-off?: A clustering of pre-meal portion planning and plate-clearing behaviors among Japanese adult consumers. European Journal of Nutrition. 2025 Nov 18;64(8):322. doi: 10.1007/s00394-025-03837-0

Kawasaki Y, Yoshii E, Fujisaki K, Shimpo M, **Nagao-Sato S**, Boehnke J, Akamatsu R, Warschburger P. Cross-cultural comparison of factors influencing sustainable dietary behaviors among Japanese and German adults. Nutrition and Health. 2025 Oct 3:2601060251381870. doi: 10.1177/02601060251381870

Mizukawa Y, Hama N, Niihara H, Miyagawa F, **Hashizume H**, Tohyama M, Takahashi H, Watanabe H, Ohyama M, Yamaguchi Y, Kawamura T, Nomura T, Kabashima K, Sueki H, Morita E, Abe R, Asada H. Guidelines for the management of drug-induced hypersensitivity syndrome 2023. J Dermatol. 2025;52:e189–e209. doi/10.1111/1346-8138.17609

総説（筆頭著者に限る）

(以下を追記)

Hattori T Unlocking Medical Breakthroughs: The Transformative Role of Case Reports in Clinical Discovery Published on line Reports 2025 Oct 27;8(4):216. doi: 10.3390/reports8040216

国際学会発表（代表発表者に限る）

【一般口演】

No.	誤	正
2	<u>Tabara Y.</u> , Shoji-Asahina A, <u>Sato Y.</u> . Different associations of low LDL cholesterol with cardiovascular events, incidence of functional disability, and all-cause mortality. Presented at: 21st EuGMS Congress; September 25, 2025.	<u>Tabara Y.</u> , <u>Shoji-Asahina A.</u> , Sato Y. Different associations of low LDL cholesterol with cardiovascular events, incidence of functional disability, and all-cause mortality. Presented at: 21st EuGMS Congress; September 25, 2025.

国内学会発表（代表発表者に限る）

【一般口演】

No.	誤	正
5	<u>田原康玄</u> , 朝比奈彩, <u>佐藤洋子</u> . 高齢者におけるLDLコレステロールと冠動脈疾患および総死亡との関連. Presented at: 第12回日本サルコペニア・フレイル学会大会; November 2025.	<u>田原康玄</u> , <u>朝比奈彩</u> , <u>佐藤洋子</u> . 高齢者におけるLDLコレステロールと冠動脈疾患および総死亡との関連. Presented at: 第12回日本サルコペニア・フレイル学会大会; November 2025.
14	<u>田原康玄</u> , 朝比奈彩, <u>佐藤洋子</u> . 肥満者と非肥満者におけるメタボリックシンドロームと循環器疾患発症との関連. Presented at: 第61回日本循環器病予防学会学術集会; May 24, 2025.	<u>田原康玄</u> , <u>朝比奈彩</u> , <u>佐藤洋子</u> . 肥満者と非肥満者におけるメタボリックシンドロームと循環器疾患発症との関連. Presented at: 第61回日本循環器病予防学会学術集会; May 24, 2025.
15	<u>田原康玄</u> , 朝比奈彩, <u>佐藤洋子</u> , 赤坂憲, 杉本研. 要介護認定に対する後期高齢者質問票の妥当性. Presented at: 第67回日本老年医学会学術集会; June 27, 2025.	<u>田原康玄</u> , <u>朝比奈彩</u> , <u>佐藤洋子</u> , 赤坂憲, 杉本研. 要介護認定に対する後期高齢者質問票の妥当性. Presented at: 第67回日本老年医学会学術集会; June 27, 2025.

（以下を追記）

栗山長門, 尾崎悦子, 小山晃英, 猪原匡史, 齊藤聡, 松井大輔, 渡邊功, 山田恵, 赤澤健太郎, 田原康玄, 渡邊能行. 高齢者の健康寿命延伸に向けた認知機能低下を伴う大脳白質病変と新規マーカー血中APP測定との関連性. Presented at: 第71回東海公衆衛生学会学術大会; July 5, 2025

栗山長門. 骨密度低下における腸内細菌叢測定の有用性-静岡調査研究-. Presented at: 第28回日本骨粗鬆症学会; September 14, 2025

栗山長門, 瀬藤和也, 木下和生, 田中仁啓, 浦野哲盟, 尾崎悦子, 中野渉, 中野聡子, 栗田泰成, 加藤倫卓, 串田修, 田原康玄. 地域高齢者における骨密度と腸内細菌叢の関連:住民調査からの探索的研究. Presented at: 第84回公衆衛生学会; October 30, 2025

栗山長門, 尾崎悦子, 瀬藤和也, 猪原匡史, 齊藤聡, 殿村修一, 服部頼都, 山田恵, 赤澤健太郎, 渡邊能行. 脳室周囲白質病変 PVH を伴う認知機能低下群における腸内細菌の同定 - 頭部 MRI による住民健診調査より. Presented at: 第15回学会総会日本脳血管・認知症学会; August 3, 2025

栗山長門、尾崎悦子、**瀬藤和也**、小山晃英、猪原匡史、殿村修一、齊藤聡、松井大輔、渡邊功、山田恵、赤澤健太郎、佐治直樹、中瀬泰然、山本康正、森直樹、金剛、渡邊能行。脳室周囲白質病変を伴う認知機能低下群における腸内細菌叢測定の有効性-頭部MRIによる調査研究。 Presented at: 第66回日本神経学会学術大会; May 23, 2025

栗山長門、**瀬藤和也**、尾崎悦子、猪原匡史、殿村修一、服部頼都、中瀬泰然、山本康正、渡邊能行。脳内微小出血と腸内細菌叢の関係: 認知機能低下の新たな予測指標。 Presented at: 第51回日本脳卒中学会; March 13, 2026

栗山長門、尾崎悦子、**瀬藤和也**、小山晃英、猪原匡史、殿村修一、服部頼都、齊藤聡、松井大輔、渡邊功、山田恵、赤澤健太郎、佐治直樹、中瀬泰然、山本康正、森直樹、金剛、渡邊能行。脳内微小出血病変 (MBs)群における腸内細菌叢測定の有効性-頭部MRIによる調査研究-。 Presented at: 第67回日本老年医学会学術集会; June 27, 2025

【講演・セミナー】

(以下を追記)

森寛子。「認知症の今」を共に生きる Presented at: 藤枝市市民大学講座; December 20, 2025

橋爪秀夫。ささいな皮膚の変化は未来を映す 健康寿命をのばすためにできること～静岡ビッグデータが語る私たちへの提言～。 Presented at: 静岡県皮膚科医会 良い皮膚の日 市民公開講座; November 8, 2025.

森寛子。つながるために*認知症の方とのコミュニケーション。 Presented at: 大正大学オープンカレッジ; August 28, 2025

森寛子。ライフヒストリー。 Presented at: 国立市シニアカレッジ; December 20, 2025